



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

令和元年度 学校要覧

目 次

◆ 校長挨拶	P 2	◆ 図書館	P29
◆ 高専制度	P 3	◆ 学生相談室	P30
◆ 校章・校歌	P 4	◆ ものづくり教育センター	P30
◆ 沿革	P 5	◆ 総合情報センター	P30
◆ 教育理念	P 6	◆ 産学民連携テクノセンター	P31
◆ 教育目的・目標（本科）	P 6	◆ キャリア支援室	P31
◆ アドミッションポリシー	P 6	◆ 学生寮	P32
◆ 各学科の3つの方針	P 7	◆ 学生会	P33
◆ 専攻科の3つの方針	P 9	◆ 入学・在学状況	P34
◆ 主な行事	P10	◆ 卒業・修了状況	P35
◆ 組織	P11	◆ 研究活動	P36
◆ 一般科目	P13	◆ 社会貢献	P36
◆ 学科		◆ 国際交流	P37
機械工学科	P15	◆ 大学等間交流協定	P38
電気電子工学科	P17	◆ 技術者教育プログラム	P39
制御情報工学科	P19	◆ 財務	P41
生物応用化学科	P21	◆ 施設	P42
材料システム工学科	P23	◆ アクセス	P44
◆ 専攻科	P25		



筑後川（手前）の畔に位置するキャンパス全景

校長挨拶

「筑紫なる 清き山水 あつめきて 流れ流るる筑後川
ひる夜となく 流れ流るる 我らも進まん学びの道を 学びの道を!!」
(久留米工業高等専門学校校歌)

「春筑後路を訪れて 桜に薫る千歳川 幾代変らぬ此の流れ
あゝ、若人の夢を秘む」

*「千歳川」は「筑後川」の古名
(旧制久留米高等工業学校逍遙歌)



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二



久留米高専は、九州随一の大河である筑後川のほとりに位置しています。春にはつつじの花が校舎いっばいに咲き競います。

機械、電気電子、制御情報、生物応用化学、材料の各工学科並びに専攻科機械・電気システム、物質の各工学専攻の学生たちは、豊かな自然に恵まれたキャンパスの中で、5年間（専攻科の場合は7年間）の貴重な学びの時を共有しています。

教職員は、教育理念に謳う「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」のために日々創意工夫と努力を重ねています。

久留米高専は、旧制久留米高等工業学校が、小森野の地に創設されてから80年、現在の工業高等専門学校の歩みを始めてから55年を経ました。1万3千余名に及ぶ卒業生・修了生は、同窓会活動を通して現在も豊富な人脈を築き上げ、国内外において、エンジニアとして、社会人として多方面で活躍しています。

本校への志願状況並びに本校学生の進路状況は順調であります。本科については、福岡県南部を中心に広範囲の地域から多数の中学生の皆さんに志願していただいています。本科卒業生の6割を占める就職希望者への求人倍率は、平成30年度4.4倍に上り、かつそのほとんどが全国や地元の有力企業に職を得ています。進学では、九州大学をはじめとする国公立大学への編入学や本校専攻科への進学を果たしています。

専攻科の進路も同様に芳しく、修了生のうちの就職希望者への求人倍率は平成30年度1.11倍に及び、

進学した人も、九州大学や東京工業大学等でさらなる研鑽の道を歩み始めています。

一方、本校の教育・研究施設は、「産学民連携テクノセンター」棟の竣工（平成21年度）、女子寮の新設（平成23年度）、図書館棟の全面改修（平成25年度）、「ものづくり教育センター」の開所（平成26年度）等相次いで充実が図られています。さらに、一昨年3月には管理棟の改修が実現しました。

近年の日本の産業構造の変化や技術科学の高度化の中で、産業界や地域・社会のニーズを踏まえたエンジニアの育成が課題となっており、実践的かつ創造的な教育を行っている高等教育機関としての高等専門学校の存在と役割が現在ひととき注目を浴びています。

久留米高専は、久留米市内の4大学・短大及び1高専からなる「高等教育コンソーシアム久留米」の立ち上げ（平成19年度）、久留米市との「事業協力に関する協定書」の締結（平成20年度）、「テクノネット久留米」の創設（平成24年度）等で産学民の連携を推し進め、一昨年度以降は、一般社団法人日本歯車工業会（平成28年5月）、一般社団法人日本ゴム協会九州支部（同年8月）、久留米商工会議所（同年12月）、久留米工業大学（平成29年6月）、九州大学大学院総合理工学府（平成30年1月）、九州大学工学系部局（平成31年2月）他との連携・協力協定等を締結し、産業界や地域・社会、大学等の学術機関からのご要望とご期待に着実にお応えしています。

今後とも久留米高専の教育・研究並びに学校運営に対して、なお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



(平成31年4月)

高専制度

1. 高等専門学校とは

1950年代後半、我が国の経済成長はめざましく、それを支える科学・技術の更なる進歩に対応できる技術者養成の要望が強まっていました。こうした産業界からの要請にこたえて、1962年に初めて国立高等専門学校（「高専」）が設立されました。

高専は、社会が必要とする技術者を養成するため、中学校の卒業生を受け入れ、5年間一貫の技術者教育を行う高等教育機関として、現在、51の国立高専があります。実験・実習を重視した専門教育を早期の段階から行うことにより、20歳の卒業時には大学と同程度の知識・技術が身につけられるカリキュラムとなっています。

高専は、優秀な技術者を卒業生として送り出し、50 年以上に渡って、モノづくり大国である日本を支えてきました。

2. 特色

(国立高等専門学校機構概要平成 30 年度版より)

(1) 教育

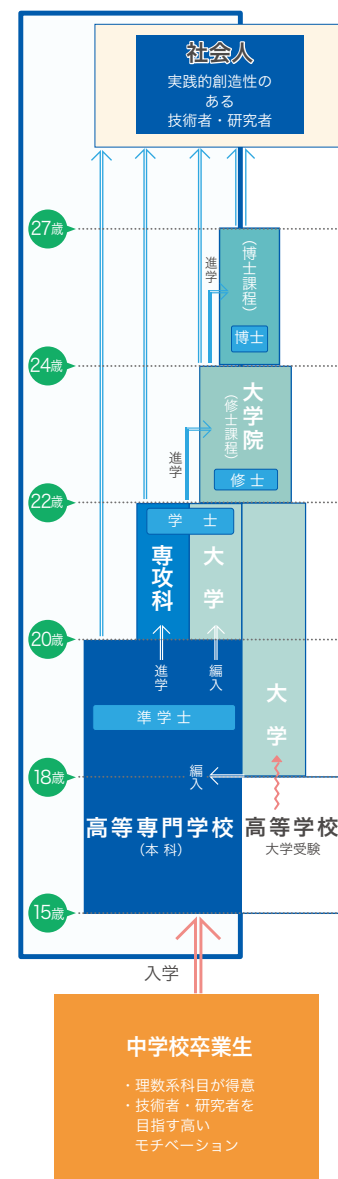
- ・15 歳からの 5 年間一貫の技術者教育（商船系学科は 5 年半）
- ・実験・実習を重視した専門教育
- ・専攻科での 2 年間のより高度な教育
- ・多様な背景を有する優れた教員（30%以上が民間企業等の経験を有し、80%以上が博士号又は修士号を保有）

(2) 卒業後の多彩なキャリアパス

- ・本科卒業者の進路
約 60%が就職
約 40%が進学（専攻科進学、大学編入学）
- ・専攻科修了者の進路
約 60%が就職
約 40%が進学（大学院入学）

(3) 豊かな人間形成

- ・「生徒」ではなく「学生」として主体性を重視
- ・すべてのキャンパスに学生寮を設置
- ・ロボコンを始めとする様々なコンテスト
(ロボット、プログラミング、デザイン、英語プレゼンテーション)



3. 主な費用（久留米工業高等専門学校の場合）

事項			金額	備考
入学料			84,600 円	
授業料			234,600 円 / 年	前期・後期各 117,300 円
学生寮	入寮費		1,000 円	
	寄宿料		1 人部屋 :800 円 / 月、その他 :700 円 / 月	
	寮費	諸経費 食費	8,000 円 / 月 約 30,900 円 / 月	9 月を除く。

校章・校歌

1. 校章



久留米市は、つつじの名所として広く知られており、本校は、春ともなればつつじの花が色彩豊かに校庭いっぱいに咲き競い、咲き乱れる。

校章はそのつつじの葉を形どったものであり、また葉脈は、学校のすぐ横を流れる九州一の大河である筑後川の流れを表象したもので、たゆまなく流れる川の流れは、たゆまなく学びの道に進みゆく姿を表したものである。

カラー :DIC249 (緑色部分)、DIC208 (黄色部分)

2. シンボルカラー

学校・学科名	色	DIC 番号	色見本
学校	緑 色	249	
機械工学科	黄 色	166	
電気電子工学科	紺 色	184	
制御情報工学科	空 色	N877	
生物応用化学科	赤 色	198	
材料システム工学科	紫 色	193	

3. 校歌

作詞 和栗 明
作曲 水野 康孝

♩ = 76

mp *mf* *mf*

1 筑紫なる 清き山水
あつめきて 流れ流るる
筑後川
ひる夜となく 流れ流るる
我らも進まん学びの道を
学びの道を !!

2 春くれば つつじの花は
日に映えて 我が校庭に
咲き競う
いのちの限り 咲き競う
我らも咲かさん技術の花を
技術の花を !!

3 紺碧の 空に聳ゆる
耳納山 永遠にゆるがで
世を譲る
雨降る日にも 嵐の夜も
我らも築かんゆるがぬものを
ゆるがぬものを !!

ち く ご が わ ひ る よ と な く な が れ
さ き き そ う い の ち の か り さ き
よ を ま も あ め ふ る ひ に も あ ら し

な が る る わ れ ら も す す ま ん ま な び の み ち を ま
き そ 一 う わ れ ら も さ か さ ん ま じ ゅ つ の は な を ぎ
の そ る も わ れ ら も き ず か ん ゆ る が ぬ も の を ゆ

な び の み ち
じ ゅ つ が の ぬ
る が

ち な 一 を
の な 一 を

沿革

久留米工業高等専門学校は、昭和 14 年に官立の実業専門学校である久留米高等工業学校が開設されたことに起源を發します。同校は、高等教育改革の一環として昭和 19 年に久留米工業専門学校へ改称し、戦後の学制改革において昭和 24 年に九州大学へ包括されて九州大学久留米工業専門学校となった後、最後の卒業生を送り出した昭和 26 年に閉校となりました。

その後、昭和 33 年に久留米工業短期大学が、そして昭和 36 年に久留米工業短期大学附属工業高等学校が各々設立され、ここに 5 年制の高等工業教育のモデルケースが全国で初めて誕生しました。

年表

			
昭和 14 年	5 月	久留米高等工業学校設立（機械科、精密機械科、工作機械科、鋳山機械科、採鋳科） 初代校長 小林 俊次郎 就任 第 1 回入学式挙行	久留米高等工業学校・久留米工業専門学校
昭和 16 年	12 月	第 1 回卒業式挙行	
昭和 17 年	4 月	化学工業科設置	
昭和 19 年	4 月	久留米工業専門学校に改称	
昭和 20 年	11 月	二代校長 大脇 策市 就任	
昭和 21 年	4 月	ゴム工業科設置	
昭和 24 年	5 月	九州大学に包括され、九州大学久留米工業専門学校となる。	
昭和 26 年	3 月	第 10 回卒業式挙行 九州大学久留米工業専門学校廃止 卒業生総数 2,654 名	
昭和 33 年	4 月	久留米工業短期大学設立（機械科、工業化学科） 初代学長 九州大学長 山田 穰（併任） 6 月 二代学長 九州大学 教授 葛西 泰二郎（併任） 第 1 回入学式挙行	久留米工業短期大学
昭和 35 年	3 月	第 1 回卒業式挙行	
昭和 36 年	4 月	電気科設置	
昭和 36 年	4 月	久留米工業短期大学附属工業高等学校設立（機械科、電気科、工業化学科） 同校初代校長 九州大学 教授 葛西 泰二郎（併任） 同校第 1 回入学式挙行	
昭和 37 年	5 月	三代学長 和栗 明 就任（附属工業高等学校長を併任）	
昭和 37 年	4 月	短期大学、附属工業高等学校に金属学科設置、機械科 1 学級増設	
昭和 39 年	3 月	附属工業高等学校廃止（在校生は同年 4 月設立の久留米工業高等専門学校に編入学）	
昭和 41 年	3 月	第 7 回卒業式挙行 久留米工業短期大学廃止 卒業生総数 752 名	

そして、昭和 39 年に久留米工業短期大学及び同附属工業高等学校から移行する形で現在の久留米工業高等専門学校が設立されました。これに伴い、久留米工業短期大学附属工業高等学校は廃止され、その在校生は久留米工業高等専門学校へ編入されましたが、その結果、昭和 41 年に全国で初めて高等専門学校の卒業生を輩出するに至っています。

また、平成 5 年には九州の高等専門学校で最初に専攻科を設置しました。

久留米工業高等専門学校

昭和 39 年	4 月	久留米工業高等専門学校設立（機械工学科 2 学級、電気工学科、工業化学科、金属工学科） 初代校長 和栗 明 就任 第 1 回入学式、編入学式挙行
昭和 41 年	3 月	第 1 回卒業式挙行
昭和 49 年	10 月	創立 10 周年記念式典挙行
昭和 51 年	7 月	二代校長 園田 正明 就任
昭和 59 年	4 月	三代校長 西川 兼康 就任
昭和 62 年	10 月	創立 20 周年記念式典挙行
昭和 62 年	4 月	金属工学科を材料工学科へ改組
平成 元年	4 月	四代校長 長谷川 修 就任
平成 3 年	4 月	機械工学科 2 学級のうち 1 学級を制御情報工学科へ改組
平成 5 年	4 月	専攻科設置 専攻科第 1 回入学式挙行
平成 6 年	4 月	五代校長 谷口 宏 就任
平成 10 年	10 月	創立 30 周年記念式典挙行
平成 7 年	3 月	専攻科第 1 回修了式挙行
平成 8 年	4 月	工業化学科を生物応用化学科へ改組
平成 11 年	4 月	六代校長 柳 謙一 就任
平成 13 年	4 月	電気工学科を電気電子工学科へ名称変更
平成 16 年	4 月	独立行政法人国立高等専門学校機構設置
平成 17 年	4 月	七代校長 前田 三男 就任
平成 22 年	4 月	八代校長 上田 孝 就任
平成 26 年	11 月	創基 75 周年・高専創立 50 周年記念式典挙行
平成 27 年	4 月	九代校長 三川 譲二 就任
平成 29 年	4 月	材料工学科を材料システム工学科に名称変更

久留米工業高等専門学校歴代校長

代	氏 名	在 任 期 間
初 代	和栗 明	昭 39. 4 ～ 昭 51. 6
2 代	園田 正明	昭 51. 7 ～ 昭 59. 3
3 代	西川 兼康	昭 59. 4 ～ 平 元. 3
4 代	長谷川 修	平 元. 4 ～ 平 6. 3
5 代	谷口 宏	平 6. 4 ～ 平 11. 3
6 代	柳 謙一	平 11. 4 ～ 平 17. 3
7 代	前田 三男	平 17. 4 ～ 平 22. 3
8 代	上田 孝	平 22. 4 ～ 平 27. 3
9 代	三川 譲二	平 27. 4 ～

教育理念

自立の精神と創造性に富み、
広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成



教育目的・目標（本科）

1 教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。
ア 自立の精神と創造性に富んだ技術者
イ 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
ウ 社会に貢献できる技術者

2 教育目標

ア 広い視野と豊かな心の涵養
イ 数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
ウ 専門に関する基礎知識と技術の修得
エ 問題を分析し、解決する能力の育成
オ 自ら学び、工夫する能力の育成
カ コミュニケーション能力の育成

アドミッションポリシー

1 本 科

1. 技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

2 専攻科

1. 科学技術に対する強い探究心をもち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身につけている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

各学科の3つの方針

機械工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 機械工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 機械技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

電気電子工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術（ICT）、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い電気電子工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 電気電子工学に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 電気電子技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

制御情報工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成します。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 制御情報分野に必要な、情報工学、通信ネットワーク、メカトロニクス、コンピュータ制御、および制御情報工学に関連した周辺技術に関連する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い制御工学と情報工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 制御工学と情報工学に関する専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

制御情報工学科は、制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会のさまざまな産業分野において活躍できる自立の精神に富んだ実践的、創造的制御情報技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 制御情報技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

生物応用化学学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者（生物化学または応用化学）を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 両コース共通に、化学・生物の基礎、化学工学、環境工学、情報リテラシー、技術者素養、応用化学コースでは化学工業に必要な、有機化学、高分子化学、ポリマー工学、機能性有機材料および応用化学に関連した周辺技術、生物化学コースではバイオ工業に必要な、生物有機化学、バイオプロセス工学、遺伝子細胞工学および生物化学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と実験技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い応用化学や生物化学に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 化学工業やバイオ工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしませんが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

生物応用化学学科は、応用化学コースと生物化学コースを設けて、化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識および技術者素養を修得、複合化して使いこなすとともに、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる、自立の精神に富んだ実践的、創造的技術者を育成することを目指しています。そのため次のような入学者を求めています。

1. 生物化学技術者または応用化学技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

材料システム工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

- 1. 材料システム工学に必要な金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する構造、性質、機能、製造プロセス、加工、リサイクル技術および関連した周辺技術、設計、解析、評価に関する基礎的な知識や技術を修得し、それらの課題を解決するために活用できる。
- 2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
- 3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
- 4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

- 1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科科目を多く配置し、高学年に進むに従い工業材料に関する専門科目が多くなるくさび形の授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
- 2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
- 3. 金属材料、セラミックス材料および高分子材料に関する材料工学の専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
- 4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

材料システム工学科は、ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまで材料に関する一連の専門知識を身につけるとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会の発展に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的材料技術者を育成することを目指しています。そのため次のような人を求めています。

- 1. 材料技術者になる意欲を持っている人
- 2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
- 3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
- 4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

専攻科の3つの方針

機械・電気システム工学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

機械・電気システム工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として、機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定めた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び機械・電気システム工学専攻で定めた専門必修科目、更に機械工学、電気電子工学または制御情報工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、機械工学、電気電子工学または情報工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

- (1) 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
- (2) 専門分野の基礎を修得している人
- (3) 社会性と倫理観を身につけている人
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

物質工学専攻

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

物質工学専攻において、自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる実践的、創造的機械技術者として生物応用化学または材料工学コースに関する専門知識及び実践技術を所定の年限内に定められた科目を修得することにより教育目的を達成した者に修了を認定します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

カリキュラムには教育目標達成に必要な講義、演習、実験を配置します。

専攻科で定めた一般科目、専門基礎科目及び物質工学専攻で定めた専門必修科目、更に生物応用化学または材料工学の各コースで定めた専門選択科目の科目群から所定単位以上修得します。

これらを定めた年限で履修、単位認定をします。科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとしますが、実験・実習科目などレポートによって認定するもの、口頭発表の評価を含むものもあります。評価基準はいずれも 60 点以上で修得とします。各コースでは、応用化学または材料工学の専攻の区分で学士の学位を取得できるカリキュラムを編成しています。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

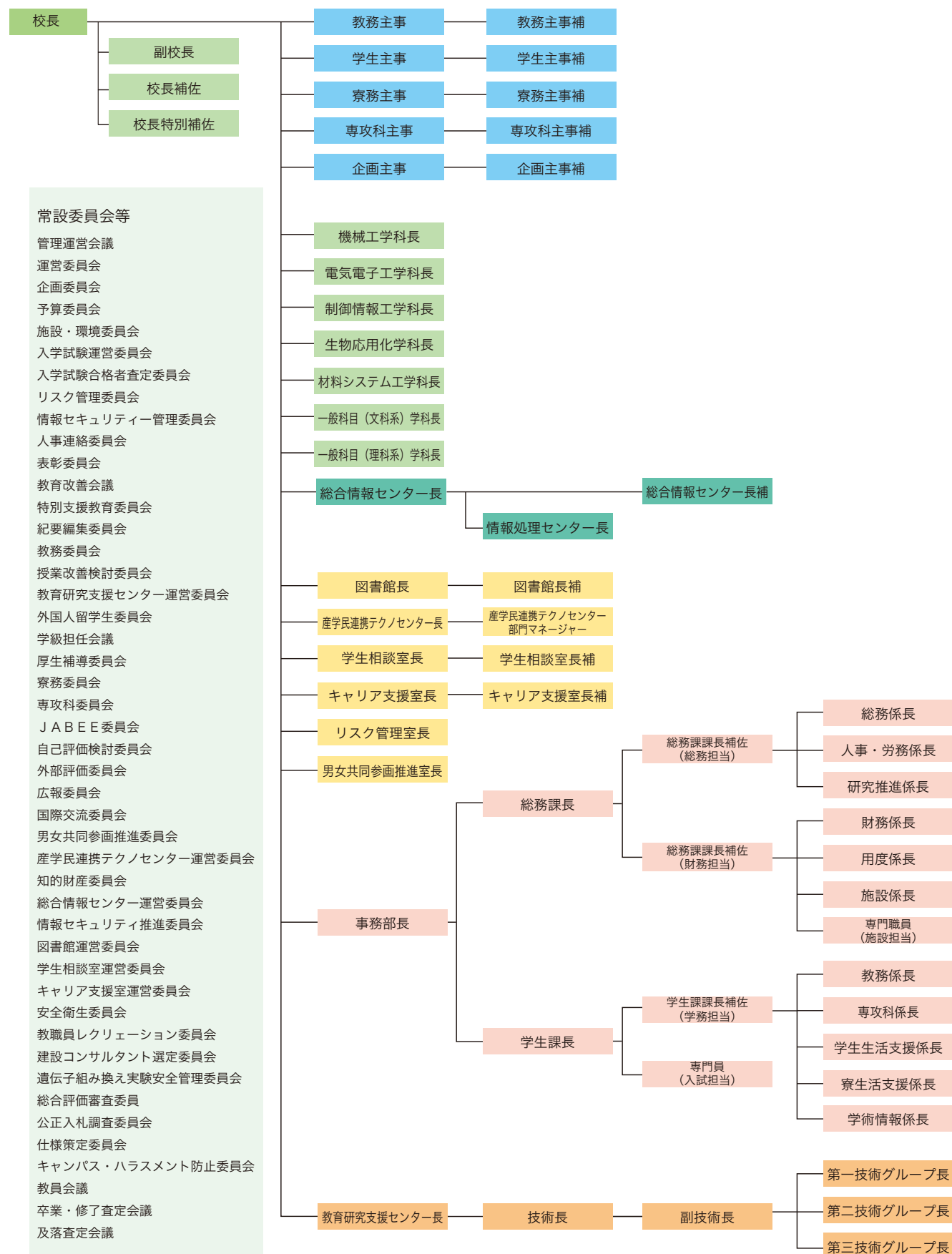
- (1) 科学技術に対する強い探究心を持ち、積極的に取り組む人
- (2) 専門分野の基礎を修得している人
- (3) 社会性と倫理観を身につけている人
- (4) 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

主な行事（令和元年度予定）

前期	後期
4月	10月
1 日 春季休業（～5 日） 5 日 入学式 8 日 始業式 18 日 開校記念日 26 日 1 年生合宿研修（～27 日）	2 日 専攻科入学試験（後期） 5 日 全校集会
5月	11月
8 日 学生大会 15 日 クラスマッチ（～16 日） 22 日 防災総合訓練	2 日 高専祭（前夜祭） 3 日 高専祭（文化祭） 5 日 高専祭（体育祭） 23 日 編入学試験 27 日 中間試験（～12 月 3 日）
6月	12月
10 日 中間試験（～14 日） 15 日 専攻科入学試験（前期） 22 日 文化部発表会	11 日 クラスマッチ 18 日 学生大会 25 日 冬季休業（～1 月 7 日） 27 日 一斉休業
	1月
	18 日 入学者選抜（推薦） 25 日 予餞会
	2月
	3 日 後期末試験（～12 日） 16 日 入学者選抜（学力）
	3月
23 日 工場見学旅行（～27 日）	3 日 終業式 13 日 卒業式、修了式 16 日 学年末休業（～31 日）

組織

1. 組織図



2. 教職員数（平成 31 年 4 月 1 日現在）

(1) 教員

		校長	教授	准教授	講師	助教	合計
標準人員枠（定員）		1	35	32	-	8	76
実行人員枠（現員）	校長	1	-	-	-	-	1
	機械工学科	-	6	4	-	1	11
	電気電子工学科	-	5	3	1	1	10
	制御情報工学科	-	5	2	1	2	10
	生物応用化学科	-	5	4	-	2	11
	材料システム工学科	-	4	3	1	2	10
	一般科目（文科系）	-	5	6	-	-	11
	一般科目（理科系）	-	3	6	1	1	11
合計		1	33	28	4	9	75

※フルタイム再雇用教員（特任教授）は助教に含みます。 ※現員には高専間人事交流等により転出した教員を含みません。

教員の年齢構成

年齢	教授	准教授	講師	助教	合計
60 歳 ~	10	-	-	-	10
50 歳 ~59 歳	19	7	-	-	26
40 歳 ~49 歳	6	17	-	-	23
30 歳 ~39 歳	-	4	4	5	13
20 歳 ~29 歳	-	-	-	2	2
合計	35	28	4	7	74

※フルタイム再雇用教員である特任教授は教授に含みます。 ※校長は除く。

(2) 職員

		事務部長	課長	専門員	課長補佐	専門職員	係長	技術長	技術専門員	看護師	技術・一般職員等	合計
標準人員枠（定員）		1	2	4	9	1	2	1	25	45		
（現員） 実行人員枠	事務部	1	-	-	-	-	-	-	-	1		
	総務課	-	1	2	6	-	-	-	7	16		
	学生課	-	1	2	3	-	-	1	5	12		
	教育研究支援センター	-	-	-	-	1	1	-	14	16		
	合計	1	2	4	9	1	1	1	26	45		

※「技術・一般職員等」とは、技術専門職員・技術職員・主任・一般職員・フルタイム再雇用職員等を指します。

3. 管理職等教職員（平成 31 年 4 月 1 日現在）

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校長	三川 讓二	一般科目（文科系）学科長	安部 規子
教務主事・副校長	江崎 昇二	一般科目（理科系）学科長	酒井 道宏
専攻科主事・副校長	奥山 哲也	総合情報センター長	加藤 直孝
学生主事・校長補佐	田中 大	図書館長	富岡 寛治
寮務主事・校長補佐	中嶋 裕之	産学民連携テクノセンター長	中武 靖仁
企画主事・校長補佐	黒木 祥光	学生相談室長	福田かおる
機械工学科長	石丸 良平	キャリア支援室長	池田 隆
電気電子工学科長	越地 尚宏	事務部長	寺田 浩一
制御情報工学科長	小田 幹雄	総務課長	世利 政則
生物応用化学科長	梶 隆彦	学生課長	前田 俊哉
材料システム工学科長	川上 雄士	教育研究支援センター長	江崎 昇二

一般科目

1. 概略

高専教育の特色は 5 年間の一貫した教育を行うことです。一般科目は専門科目と相まって、優れた技術者の育成を期するため、広い視野に立った社会人として必要な教養と創造性に富む、個性豊かな人間形成を目標とします。

一般科目のうち、文科系科目では、国際感覚を持って活躍できる技術者として必要な教養とコミュニケーション能力の養成を、また理科系科目では、数学、物理、化学等、専門工学を修得するための基礎となる十分な能力を培うことを主眼にして教育が行われています。

2. 教員

(1) 一般科目 (文科系)

①常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
安部 規子	教授 / 学科長	博士（教育学）	第二言語習得	英語 2、英語 V、実用英語、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、実践英語Ⅰ、実践英語Ⅱ
福田かおる	教授	Doctor of Philosophy	社会人類学、英国文化	英語 1、英語 V、応用英語 1、応用英語 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
西原 雅博	教授	Doctor of Philosophy	英語教育	英語 1、英語講読、英語 V
小林美恵子	教授	博士（文学）	近現代日本女性文学	沼津高専へ人事交流中
龍頭 信二	教授	修士（教育学）	運動生理学	保健体育 1、保健体育 3、生涯スポーツ 1、生涯スポーツ
金城 博之	教授	Master of Arts	英米文学、英語教育学	英語表現 1、応用英語 1、応用英語 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、時事英語、実践英語Ⅲ
徳永 正尚	准教授	修士（教育学）	英語教育学	英語表現 1、英語 1、英語 2、英語 3、英語講読、英語 V
藍澤 光晴	准教授	博士（経済学）	経済史	現代社会、人文社会科学探求 1、人文社会科学探求 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
横溝 彰彦	准教授	Master of Arts in Speech Communication	コミュニケーション学	英語 1、応用英語 1、応用英語 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、英語 V、実践英語Ⅰ、実践英語Ⅱ
岡本 和也	准教授	修士（文学）	中世東地中海世界の歴史	世界史、人文社会科学探求 1、人文社会科学探求 2、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
鴨川 都美	准教授	博士（文学）	日本近現代演劇 / 文学	国語 2、リテラシー実践、日本語、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
赤塚 康介	准教授	博士（理学）	運動生理学	保健体育 1、保健体育 2、生涯スポーツ 1、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
米永 正敏	嘱託准教授		英語教育	英語表現 1、英語 2、英語 3

②非常勤講師

氏名	担当科目	備考
小宮 厚	国語2	元・久留米工業高等専門学校 准教授
檜崎洋一郎	国語1	
木本 拓哉	国語1、国語2、リテラシー実践	
明官 秀隆	保健体育2、保健体育3、生涯スポーツ	元・旭川工業高等専門学校 教授
奥野 真由	生涯スポーツ1、生涯スポーツ	久留米大学 助教
江島 孝人	英語3	久留米大学 非常勤講師
ボシール ジャン クロード	英語表現2	語学学校経営
ポール マッフェュ ジョン ミーイン	英語表現2、工業英語	語学学校経営
永吉 守	地理	西南学院大学・西九州大学 非常勤講師
川浪 朋恵	地理	
松下 愛	人文社会科学探求1、人文社会科学探求2	久留米大学 学長特命講師
水頭 順子	音楽	九州龍谷短期大学保育科 教授
今田 淳子	美術	芸術作家
趙 淑範	中国語	国際医療福祉大学 非常勤講師
安 潯珠	韓国語	福岡女子大学 非常勤講師
日高 雅彦	ドイツ語	西南学院大学 非常勤講師

(2) 一般科目 (理科系)

①常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
篠島 弘幸	教授	博士（工学）	材料物性・量子エレクトロニクス	物理、応用物理実験、応用物理 1、統計力学及び熱力学
宮本 久一	教授	工学博士	化学	化学 1、化学 2、化学実験、応用化学実験、分子機能化学
酒井 道宏	教授 / 学科長	博士（数理学）	代数的位相幾何学	数学 3A、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、応用数理Ⅲ
山崎 有司	准教授	修士（理学）	薄膜	物理、応用物理実験、応用物理 1、応用物理 2
菰田智恵子	准教授	博士（理学）	一般位相幾何学	数学 2A、数学 3B、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
高橋 正郎	准教授	修士（理学）	微分幾何	数学 1、数学 3B、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2
谷 太郎	准教授	博士（理学）	素粒子論	物理、応用物理実験、応用物理 1、現代物理学
黒飛 敬	准教授	博士（理学）	化学	化学 1、化学 2、化学実験、応用化学実験、専攻科研究基礎、分子機能化学
川嶋 克利	准教授	博士（理学）	非可換幾何学	数学 1、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、応用数理Ⅱ
沖田 匡聡	講師	博士（数理学）	偏微分方程式論	数学 2B、数学 3A、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2、応用数理Ⅰ
松田 康雄	特任教授	博士（数理学）	数学	数学 1、数学 2A、リベラルアーツ特論 1、リベラルアーツ特論 2

②非常勤講師

氏名	担当科目	備考
原田 哲夫	数学 3B	予備校講師
西岡 昌幸	数学 2B	九州産業大学 非常勤講師
一政遼太郎	応用物理 2	九州産業大学 非常勤講師
中園 良子	生物	朝倉高校 非常勤講師
大塚 史子	地学	元日本学術振興会 特別研究員 RPD
中村 理央	物理、応用物理 2	久留米工業大学 非常勤講師

3. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
デジタル語学演習システム	Adill-1000 System	1 式	マルチメディア教室
英語 e-learning 教材	NetAcademy Next PowerWords コース他	－	－
英語学習用 PC		24 台	PC 学習室
赤外分光光度計	JASCO、FT/IR4100	1 台	一般化学分析室
旋光度計	JASCO、DIP-1000	1 台	一般化学分析室

4. 教育課程（本科 1～5 年）

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
国語	国語 1	4	4					
	国語 2	2		2				
	リテラシー実践	2			2			留学生は日本語を履修
社会	地理	2	2					
	世界史	2		2				
	現代社会	2		2				
必 修 科 目	人文社会科学探求 1	1			1			
	人文社会科学探求 2	1			1			
数 学	数学 1	6	6					
	数学 2A	4		4				
	数学 2B	2		2				
	数学 3A	4			4			
	数学 3B	2			2			
	物理	4		4				
	化学 1	3	3					C は 4 単位
	化学 2	2		2				C は 1 単位
	生物	1	1					A、E、S、M
	生物学 1	2	2					C
	地学	1	1					A、E、S、M
	英語 1	4	4					
	英語表現 1	2	2					
	英語 2	4		4				
	英語表現 2	2		2				
	英語 3	4			4			学修単位
	応用英語 1	2				2		学修単位
	応用英語 2	2				2		学修単位
	保健体育 1	2	2					
	保健体育 2	2		2				
	保健体育 3	2			2			
	生涯スポーツ 1	2				2		
	生涯スポーツ 2	1					1	
	美術	1	1					A、S、C、M
	音楽	1	1					E
教 養 科 目	リベラルアーツ特論 1	1				1		
	リベラルアーツ特論 2	1				1		
	必修科目修得小計	80	29	26	16	8	1	

授 業 科 目		単位数	学 年 別 配 当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
選 択 科 目	日本語	2			2			3 年編入留学生の必修科目
	中国語	1				1	(1)	いずれか1単位を4年次に修得。(4年次修得できなかった場合は、5年次に履修可)
	韓国語	1				1	(1)	
	ドイツ語	1				1	(1)	
選択科目修得小計		1				1	(1)	
一般科目修得合計		81 名	29	26	16	10		

※ A: 機械工学科
E: 電気電子工学科
S: 制御情報工学科
C: 生物応用化学科
M: 材料システム工学科

機械工学科

1. 概略

機械工学科は、以下の教育目的・目標の下、主に機械設計、機械加工、機械の4力学（材料力学、機械力学、流体力学、熱力学）に関する教育を行っています。

最先端のものづくりのため、3次元設計・解析・製造過程のデジタルエンジニアリング教育を実践しているのが本学科の特徴です。卒業生は、主に航空・宇宙、自動車、重工業、エネルギー・環境、ロボット、電力、鉄鋼、電機、化学、医薬品・食品など広範囲な産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得し、創造性豊かで国際的視野に立った実践的技術者を育成する。

(2) 教育目標

機械技術者としての素養を備え、基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

(1) 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
原田 豊満	教授	博士（工学）	材料力学	機械加工実習2、材料力学2、機械工学セミナー、機械要素設計実験、機械工学概論、産業財産権特論、弾塑性力学
和泉 直志	教授	工学博士	機械要素	機械加工実習1、機械設計法1、精密加工学、設計システム工学、トライボロジー解析学
中武 靖仁	教授	博士（工学）	環境エネルギー工学	機械加工実習3、機械設計製図、伝熱工学、機械工学概論、地球環境と現代生物学
石丸 良平	教授 / 学科長	博士（工学）	歯車工学	機械製図3、専門基礎（機械工学）、機械設計製図、短期インターンシップ、機械設計法2、機械工学セミナー
谷野 忠和	教授	博士（工学）	流体力学	応用数学2、四力学演習、流体力学、機械工学セミナー、機械要素設計実験、流体機械、先端工学特論、応用流動工学
田中 大	教授	博士（工学）	熱工学	工業英語、四力学演習、工業熱力学、機械工学セミナー、機械要素設計実験、創造工学実験、技術英語、移動現象論
青野 雄太	准教授	博士（工学）	材料力学	機械製図2、CAD演習、材料力学1、四力学演習、材料力学2、破壊力学
中尾 哲也	准教授	博士（情報工学）	制御工学	専門基礎（機械工学）、工業力学、四力学演習、機械工学セミナー、機械要素設計実験、機械力学、制御工学、応用情報処理演習、創造工学実験、計算力学
細野 高史	准教授	博士（工学）	特殊加工	機械加工実習1、機械加工実習2、機械加工学、機械加工実習3、応用数学3、品質管理、生産加工学
南山 靖博	准教授	博士（工学）	安全工学	情報リテラシー、CAD演習、専門基礎（機械工学）、応用数学1、安全工学と工業倫理、工業倫理、機械工学セミナー
渡邊 悠太	助教	博士（工学）	表面処理	機械製図1、図学、機構学、機械設計法1
全員が担当することを基本とする授業科目				機械工学導入セミナー、機械工学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	備考
渡邊 聡	機械工学セミナー（流体力学特論）	九州大学大学院工学研究院 教授
野口 博司	機械工学セミナー（材料力学特論）	九州大学大学院工学研究院 教授
森田 昌嗣	機械工学セミナー（デザイン工学特論）	九州大学大学院芸術工学研究院 教授
林 英治	機械工学セミナー（制御工学特論）	九州工業大学大学院情報工学研究院 教授
宮崎 隆彦	機械工学セミナー（熱工学特論）	九州大学大学院総合理工学研究院 教授
黒河 周平	機械工学セミナー（設計工学特論）	九州大学大学院工学研究院 教授
原 信海	産業財産権特論	原特許事務所 所長
元村 直行	産業財産権特論	元村知財コンサル事務所 所長
松永 崇	環境倫理学、工学倫理	久留米工業高等専門学校名誉教授

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
5軸マシニングセンタ	マザック VARIAXIS 500-5X II	1式	ものづくり教育センター
ワイヤ放電加工機	牧野フライス製作所 U3	1式	ものづくり教育センター
表面粗さ・輪郭形状複合測定機	東京精密 SURFCOM 2900DX3/SD3	1式	ものづくり教育センター
精密万能試験機 (30Tf)	島津製作所 オートグラフ AG-300kNXPlus	1式	材料力学実験室
コモンレール式ディーゼル機関性能実験装置	FC デザイン DA50UW	1式	熱工学実験室
赤外線サーモグラフィー	アドバンストサーモ TVS-500EX	1式	熱工学実験室
走査電子顕微鏡	日本電子 JSM-6010LA	1式	機械要素設計実験室
3次元プリンター	FLASHFORGE ADVENTURER3	1式	機械要素設計実験室

5. 教育課程（専門科目）

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考	
			1年	2年	3年	4年	5年		
必修科目	専門数学	応用数学 1	1				1		
		応用数学 2	1				1		
		応用数学 3	2					2	学修単位
	専門理科	応用物理 1	2			2			
		応用物理 2	2			2			
		応用物理実験	2			2			
		化学実験	2		2				
	技術者素養	機械工学導入セミナー	1	1					
		安全工学と工業倫理	1				1		
		工業英語	1				1		
		機械工学セミナー	2					2	学修単位
	設計科目	図学	2		2				
		機械製図 1	2	2					
		機械製図 2	2		2				
		CAD 演習	1			1			
		機械製図 3	4			4			
		機械設計製図	4				4		
		機械要素設計実験	2					2	
		機械設計法 1	2				2		
		機械設計法 2	1					1	
		機構学	1			1			
	力学	工業力学	2				2		
		機械力学	2					2	学修単位
		材料力学 1	1			1			
材料力学 2		2				2			
制御情報	四力学演習	2				2			
	情報リテラシー	1		1					
	制御情報工学概論	1			1			学科横断科目	
	制御工学	2					2	学修単位	

授 業 科 目		単 位 数	学 年 別 配 当					備 考		
			1年	2年	3年	4年	5年			
必修科目	製造技術	機械加工学	1				1			
		精密加工学	1				1			
		品質管理	1					1		
		機械加工実習 1	3	3						
		機械加工実習 2	3		3					
		機械加工実習 3	3			3				
		材料システム工学概論	1			1			学科横断科目	
		熱流体	流体工学	2				2		
			流体機械	2					2	学修単位
	工業熱力学		2				2			
	伝熱工学		2					2	学修単位	
	機械工学実験		3				3			
	専門関連	卒業研究	12					12		
		電気電子工学概論	1				1		学科横断科目	
化学工学概論		1					1	学科横断科目		
必修科目修得小計		89	6	10	19	25	29			
選択科目	短期インターンシップ	1				1				
	専門基礎（機械工学）	2			2			3年次編入留学生の必修科目		
	機械工学概論	1				1		4年編入生のみ履修		
	選択科目修得小計		0	上						
専門科目修得合計		89	上	6	10	19	25	29		

修得単位数総計								
一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1				1	(1)	
	小計	78	26	26	16		10	
専門	必修科目	89	6	10	19	25	29	
	選択科目	0	上					
	小計	89	上	6	10	19	25	29
総修得単位数		167	上	32	36	35	64	以上

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、九州大学、九州工業大学、熊本大学、佐賀大学、宮崎大学、鹿児島大学、山口大学、東京工業大学、千葉大学、首都大学東京、大阪大学、関西大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学

(2) 就職先

三菱重工業(株)、川崎重工業(株)、本田技研工業(株)、日産自動車(株)、ダイハツ工業(株)、ヤマハ発動機(株)、新日鐵住金(株)、(株) IHI、三井造船(株)、ANA(株)、三菱電機(株)、(株) プリチストン、(株) 小松製作所、ヤンマー建機(株)、(株) 牧野フライス製作所、ファナック(株)、ダイキン工業(株)、東海旅客鉄道(株)、キヤノン(株)、日本精工(株)、第一精工(株)、NOK(株)、(株) カシフジ、JXエンジニアリング(株)、日本精工九州(株)、福岡酸素(株)、昭栄化学工業(株)、(株) マツダE&T、三菱日立パワーシステムズ(株)

電気電子工学科

1. 概略

電気電子工学科では、以下の教育目的・目標の下、主に電気工学、電子工学、情報工学、通信工学等の電気電子工学各分野に関する教育を行っています。

工学基礎を学ぶ講義を始め、実験、インターンシップ、卒業研究等のものづくり重視の実践的教育科目をバランス良く配置し、あらゆる分野の問題解決に取り組める応用力育成を図るのが、本学科の特徴です。

卒業生は、製造業、エネルギー産業に加え、流通、情報産業に渡る広い分野の技術者として活躍しています。さらに、一定の実務経験により電気主任技術者の国家資格を得ることができます。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

先端技術であるエレクトロニクスと ICT、及びこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得し、高度情報通信社会に貢献できる実践的、創造的電気電子技術者を育成する。

(2) 教育目標

電気電子技術者としての素養を備え、専門知識と技術を修得し、それらを総合的に活用できる能力を養成する。

3. 教員

(1) 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
池田 隆	教授	博士（工学）	音声信号処理	電気電子工学基礎、総合基礎演習、電気回路 2、電気電子演習 3、専門基礎（電気電子工学）、電気電子設計、デジタル信号処理、専攻科研究論文
加藤 直孝	教授	博士（政策・メディア）	人工知能	情報リテラシー、プログラミング 1、総合基礎演習、プログラミング 2、電気電子演習 2、プログラミング 3、専門基礎（電気電子工学）、計算機アーキテクチャ 2、情報インフラストラクチャー、情報理論、通信ネットワーク、コンピュータサイエンス、専攻科研究基礎、専攻科研究論文
越地 尚宏	教授 / 学科長	博士（理学）	物性物理、工学教育	総合基礎演習、電磁気学 1、電磁気学 3、応用数学 1、応用数学 2、応用物理 2、電気電子実験 2、短期インターンシップ、電気電子実験 3、量子力学、電気電子工学特論、専攻科研究基礎
平川 靖之	教授	博士（工学）	レーザー分析	総合基礎演習、電気回路 1、電気電子 C A D、専門基礎（電気電子工学）、電気回路 3、電気電子工学特論、応用電磁気学、先端工学特論、技術英語、光エレクトロニクス
宮崎 浩一	教授	博士（工学）	プラズマ科学	電気電子演習 1、総合基礎演習、電気電子演習 2、高電圧工学、電気電子実験 2、パワーエレクトロニクス応用、プラズマ工学
山口 崇	准教授	博士（工学）	磁気応用・計測	電気電子演習 1、総合基礎演習、論理回路、電気電子実験 2、電力応用、電気電子実験 3、システム工学、専攻科研究論文
ウリントヤ	准教授	博士（工学）	高周波工学	総合基礎演習、計算機アーキテクチャ 1、電気電子演習 2、マイコン制御、電気電子演習 3、電気電子計測、コミュニケーション、短期インターンシップ、創造工学実験、専攻科研究基礎
村上 秀樹	准教授	博士（工学）	半導体工学	総合基礎演習、電気電子演習 2、確率・統計、電気電子実験 1、半導体工学、半導体デバイス、集積回路工学、専攻科研究論文
山本 哲也	講師	博士（工学）	磁気応用・計測	総合基礎演習、電磁気学 2、電気機器工学 1、電気電子演習 3、専門基礎（電気電子工学）、アクチュエータ、電気電子実験 2、電力システム、電気電子実験 3、専攻科研究論文
原田裕二郎	助教	博士（工学）	集積回路工学	電気電子工学概論（4A、5C）、制御工学、アナログ電子回路、制御工学 2、創造工学実験
全員が担当することを基本とする授業科目				卒業研究

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	備考
末廣 純也	電力発生工学	九州大学大学院システム情報科学研究院電気システム工学部門 教授
堤 安弘	電気施設管理	九州電力株式会社 送配電カンパニー 福岡送配電統括センター 企画業務部 系統計画グループ長
奥村 浩	技術社会の安全と倫理	佐賀大学理工学部知能情報システム学科 教授
カブリド フランク	電気電子演習 1、電気電子演習 2	I-ERAI Education Consulting、久留米大学非常勤講師

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
太陽光エネルギーシミュレータシステム	エヌエフ回路ブロック製 FUK54519、10kW、系統連系対応	1 式	電気機器・自然エネルギー実験室
電動機 - 発電機実験装置	精工社製作所製、2.2kW 直流機・誘導機・同期機	1 式	電気機器・自然エネルギー実験室
電子回路・プリント基板設計 CAD	メンターグラフィックス	200 ライセンス	L1、L2 及び各実験室
テラヘルツ時間領域分光システム	大塚電子 TR-100KS	1 式	機械・電気システム工学実験室
プロセス・デバイスシミュレータ	VENUS-2D/B、VS-P/B、VEGA	1 式	半導体・信号処理実験室
走査型電子顕微鏡（SEM）	TOPCON ABT-32	1 式	半導体・信号処理実験室

5. 教育課程（専門科目）

授業科目	単位数	学 年 別 配 当					備 考
		1年	2年	3年	4年	5年	
電気電子工学基礎	電気電子工学基礎	1	1				
	電磁気学 1	1	1				
	電磁気学 2	2		2			
	電磁気学 3	1			1		
	電気回路 1	1	1				
	電気回路 2	2		2			
	電気回路 3	2			2		
	半導体工学	2			2		学修単位
	応用物理 1	2		2			
	応用物理 2	2			2		
	確率統計	1		1			
	応用数学 1	2			2		
	応用数学 2	2			2		
電気機器工学 1	電気機器工学 1	1		1			
	電気機器工学 2	1			1		
	パワーエレクトロニクス	2				2	学修単位
	高電圧工学	2			2		学修単位
	電力発生工学	1				1	
	電力システム	1				1	
	電力応用	1				1	
	機械工学概論	1			1		学科横断科目
	制御工学	2			2		学修単位
	情報リテラシー	1	1				
	プログラミング 1	1	1				
	プログラミング 2	2		2			
	プログラミング 3	1			1		
計算機アーキテクチャ	計算機アーキテクチャ	1				1	
	論理回路	2			2		
	電子回路	2			2		
	マイコン制御	1			1		
	電気電子計測	2			2		学修単位
	情報理論	1				1	
	情報インフラストラクチャー	1				1	
	通信ネットワーク	1				1	
工業・設計	技術社会の安全と倫理	1				1	
	電気施設管理	1				1	
	コミュニケーション	1				1	
	システム工学	1				1	
	電気電子 CAD	2	2				
	電気電子設計	1				1	
	電気電子材料	1				1	学科横断科目
	生物応用化学概論	1				1	学科横断科目
	化学実験	2	2				
	応用物理実験	2			2		
	総合基礎演習	2	2				
	電気電子演習 1	1	1				
	電気電子演習 2	2		2			
	電気電子演習 3	2			2		
実験・実習	電気電子実験 1	2			2		
	電気電子実験 2	4				4	
	電気電子実験 3	2				2	
	卒業研究	12				12	
	必修科目修得小計	89	6	10	18	30	25
	短期インターンシップ	1				1	
	専門基礎（電気電子工学）	2			2		3 年編入留学生の必修科目
	電気電子工学概論	1				1	4 年編入生のみ履修
	選択科目修得小計	0 以上					
	専門科目修得合計	89 以上	6	10	18	30	25
選択科目	必修科目	77	26	26	16	8	1
	選択科目	1				1	(1)
	小計	78 以上	26	26	16		10
	必修科目	89	6	10	18	30	25
	選択科目	0 以上					
	小計	89 以上	6	10	18	30	25
	総修得単位数	167 以上	32	36	34	65 以上	
	※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目						
	必修科目	77	26	26	16	8	1
	選択科目	1				1	(1)
	小計	78 以上	26	26	16		10
	必修科目	89	6	10	18	30	25
	選択科目	0 以上					
	小計	89 以上	6	10	18	30	25
	総修得単位数	167 以上	32	36	34	65 以上	
	※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目						

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、九州大学工学部、東京大学工学部、九州工業大学工学部、熊本大学工学部、豊橋技術科学大学工学部、大阪大学工学部、広島大学工学部、佐賀大学理工学部、鹿児島大学工学部、電気通信大学情報理工学部、岡山大学工学部、東北大学工学部、和歌山大学システム工学部、京都工芸繊維大学工芸科学部、福井大学工学部、関西大学理工学部、福岡大学理学部

(2) 就職先

九州電力（株）、アイシン精機（株）、大分キャノン（株）、西部ガス（株）、関西電力（株）、電源開発（株）、ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング（株）、西日本旅客鉄道（株）、（株）小松製作所、（株）明電舎、コニカミノルタビジネスソリューションズ（株）、NS ウェスト（株）、キャノンシステムアンドサポート（株）、平田機工（株）、第一精工（株）、中部電力（株）、キャノンメディカルシステムズ（株）、江崎グリコ（株）、日産自動車九州（株）、（独）宇宙航空研究開発機構（JAXA）

制御情報工学科

1. 概略

半導体の驚異的な性能向上により、パソコンのみならず、自動車・電化製品を初めとするあらゆる製品にコンピュータが組み込まれています。

制御情報工学科では、このような情報化社会に対応すべく、コンピュータを用いた機械や電子機器（例えばロボット、デジタルカメラ、全自動洗濯機）を制御するメカトロニクス技術および情報工学の専門知識を修得する教育課程を設けています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

制御、情報を中心とした幅広い専門知識を修得し、広い視野と豊かな創造性を備え、さまざまな産業分野において活躍できる実践的能力に優れた技術者を育成する。

(2) 教育目標

メカトロニクスや情報の分野で活躍できる技術者になるために必要な基礎的な知識、技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。

3. 教員

(1) 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
丸山 延康	教授	博士（工学）	映像符号化	プログラミング3、オブジェクト指向プログラミング、計算機システム、データ構造とアルゴリズム、オペレーティングシステム、マルチメディア工学、情報通信実験、創造工学実験
江崎 昇二	教授	修士（工学）	制御工学	加工実習、シーケンス制御、創造プログラミング演習、制御工学実験
江頭 成人	教授	博士（工学）	制御工学	情報処理基礎、制御情報工学概論（3A）、電子回路、パワーエレクトロニクス、制御工学実験、工業倫理と安全、システム制御工学、デジタル制御、先端工学特論
小田 幹雄	教授/学科長	博士（工学）	知能情報工学	論理回路、デジタル回路設計、短期インターンシップ、通信工学、計算機アーキテクチャ1、計算機アーキテクチャ2、技術英語、形式言語とオートマトン
黒木 祥光	教授	博士（工学）	画像処理	応用数学1、創造プログラミング演習、情報理論、信号処理、情報通信実験、画像工学、コンピュータグラフィックス
中野 明	准教授	博士（情報工学）	教育工学	プログラミング2、ソフトウェア工学、データベース基礎、情報処理演習、情報処理2、情報通信実験、コンパイラ、データベース
松島 宏典	准教授	博士（工学）	高度道路交通システム	加工実習、計算機ネットワーク、応用数学2、創造プログラミング演習、離散数学、応用情報処理、パターン認識
堺 研一郎	講師	博士（工学）	スピントロニクス	電気回路1、電気回路2、電磁気学、半導体材料工学
田中 諒	助教	博士（工学）	システム制御理論	プログラミング1、製図、CAD演習、制御工学1、短期インターンシップ、創造工学実験
古賀 裕章	助教	博士（工学）	医用画像処理	電子回路
綾部 隆	嘱託教授	工学博士	機械力学	情報処理基礎、機構学、機械工学概論、数値計算法、ロボット工学、メカトロニクス工学
全員が担当することを基本とする授業科目				制御情報工学概論、卒業研究

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	備考
請園 智玲	電子計算機基礎、情報セキュリティ	福岡大学工学部電子情報工学科 助教
千田 陽介	計測工学	久留米工業大学情報ネットワーク工学科 教授
原 模 真也	制御工学2	有明工業高等専門学校 准教授

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
設計用パーソナルコンピュータ、FPGA 開発ボード等	SOLIDWORKS	25 式	メカトロニクスデザイン室
演習用パーソナルコンピュータ、ロボットキット、三次元 CAD 等		50 台	制御情報実験室
オシロスコープ、FFT アナライザ、トランジスタ実験装置、マイクロコンピュータ実験装置等		数台	電気電子機器実験室
産業用ロボット Performer	MK-3S((株) 八幡精工製)	1 式	システム制御実験室
GPU による並列計算用サーバ		2 台	画像処理実験室、知能情報実験室

5. 教育課程（専門科目）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
専門共通基礎	制御情報工学概論	1	1				
	化学実験	2		2			
	応用物理 1	2		2			
	応用物理 2	2		2			
	応用物理実験	2		2			
	応用数学 1	2			2		
	応用数学 2	2			2		
	製図	1	1				
必修科目	加工実習	2	2				
	機構学	1	1				
	シーケンス制御	1		1			
	電磁気学	2			2		
	電子回路	2			2		
	電気回路 1	2		2			
	電気回路 2	2			2		
	CAD 演習	1		1			
	ロボット工学	2				2	
	計測工学	1			1		
	制御工学 1	2			2		
	制御工学 2	1				1	
	制御工学実験	2				2	
	パワーエレクトロニクス	1			1		
	半導体材料工学	1			1		
	工業倫理と安全	1			1		
必修科目	物質工学概論	1				1	学科横断科目
	機械工学概論	2			2		学科横断科目
	情報処理基礎	2	2				
	プログラミング 1	1	1				
	プログラミング 2	2		2			
	プログラミング 3	1			1		
	オブジェクト指向プログラミング	1			1		
	電子計算機基礎	2		2			
	論理回路	2		2			
	計算機ネットワーク	1			1		
情報系	情報セキュリティ	1			1		
	データベース基礎	2				2	学修単位
	創造プログラミング演習	2			2		
	電子情報実験	2				2	学修単位
	情報理論	2				2	
	離散数学	2			2		
	数値計算法	2			2		
	データ構造とアルゴリズム	1			1		
	計算機システム	1			1		
	オペレーティングシステム	1				1	
必修科目	ディジタル回路設計	1			1		
	コンパイラ	2				2	学修単位
	ソフトウェア工学	1			1		
	計算機アーキテクチャ 1	1				1	
	計算機アーキテクチャ 2	2				2	学修単位
	信号処理	2			2		学修単位
	通信工学	1				1	
	マルチメディア工学	1				1	
	情報通信実験	2				2	
	卒業研究	7				7	
必修科目修得小計		89	4	8	18	29	30
選択科目	I 群 短期インターンシップ	1				1	
	II 群 制御情報工学基礎 A	1				1	
	制御情報工学基礎 B	1				1	
	専門基礎（制御情報工学）	2			2		
選択科目修得小計		0 以上				0 以上	
専門科目修得合計		89 以上	4	8	18	59 以上	
修得単位数総計							
一般	必修科目	77	26	26	16	8	1
	選択科目	1				1	(1)
	小計	78	26	26	16		10
専門	必修科目	89	4	8	18		59
	選択科目	0 以上					0 以上
	小計	89 以上	4	8	18		59 以上
総修得単位数		167 以上	30	34	34	69 以上	

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

専攻科、豊橋技術科学大学、九州大学工学部・理学部・経済学部、東京工業大学情報理工学院、大阪大学工学部・基礎工学部、名古屋大学工学部、筑波大学情報学群、千葉大学工学部、九州工業大学情報工学部、神戸大学理学部

(2) 就職先

富士通、富士通九州システムズ、NEC フィールディング、NTT コムソリューションズ、日立製作所、セイコーエプソン、パナソニック、ダイキン工業、ファナック、積水化学工業、サントリースピリッツ、本田技研、トヨタ自動車九州、マツダ E&T、九州電力、西日本旅客鉄道、浜松ホトニクス、三井ハイテック、第一精工、大電、警察局

生物応用化学学科

1. 概略

生物応用化学学科は、以下の教育目的・目標の下、主に化学、生物学、技術者素養に関する教育を行っています。

低学年において基礎科目を幅広く学習し、4 年次から応用化学コースと生物化学コースに別れ専門的に学ぶことができることが本学科の特徴と言えます。

卒業生の半数は本科卒業後に就職し、主に総合化学工業、医療器・医薬品工業、食品工業で活躍しています。残り半数は、(国立) 大学へ編入学または専攻科へ進学し、さらに高度な科目を継続して学習します。

2. 教育目的・目標

- (1) 教育目的
- 化学工業、バイオ工業に必要な基礎・専門知識及び技術者素養を修得し、個別の知識を複合化して使いこなし、社会に貢献できる実践的・創造的技術者を育成する。
- (2) 教育目標
- 化学工業、バイオ工業に必要な専門知識、豊富な実験技術を修得し、環境に配慮し技術者倫理を守って、それらを課題解決及び企画立案に活用できる能力を養成する。

3. 教員

(1) 常勤				
氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
富岡 寛治	教授	博士（工学）	生物工学	生物学 1、基礎無機化学、物質工学概論、産業財産権・工業倫理、応用情報処理演習、基礎生物化学実験、創造工学実験
中島 裕之	教授	博士（農学）	生化学	生物学 2、遺伝子・細胞工学、基礎生物化学実験、生物化学実験、専門基礎（生物応用化学）、生物応用化学概論、生体機能分子学、分子生物学
辻 豊	教授	博士（理学）	有機化学	化学 1、有機合成化学、分析化学実験、有機化学実験、専門基礎（生物応用化学）、工業物理化学 2、物性化学
梶 隆彦	教授 / 学科長	博士（工学）	反応工学	創造化学実験、物理化学 1、物理化学 2、物化・化工実験、短期インターンシップ、化学工学 2、バイオ工学、応用物理化学
石井 努	教授	博士（工学）	機能有機化学	分析化学実験、酸塩基化学、有機化学実験、工業物理化学 1、機器分析、有機金属化学、短期インターンシップ、有機反応化学
笈木 宏和	准教授	博士（農学）	微生物工学	基礎生物化学実験、情報化学 1、生物化学実験、情報化学 2、専門基礎（生物応用化学）、代謝工学、環境工学、生体物質化学、先端工学特論
渡邊 勝宏	准教授	博士（工学）	高分子化学	創造化学実験、化学 2、基礎有機化学 1、分析化学実験、基礎有機化学 2、有機化学 1、専門基礎（生物応用化学）、高分子化学 2、高分子材料学
松田 貴暁	准教授	博士（工学）	応用化学	基礎溶液化学、化学平衡論、有機化学実験、専門基礎（生物応用化学）、無機化学 1、有機化学 2、無機化学 2、物化・化工実験
萩原 義徳	准教授	博士（理学）	構造生物学	生物学 2、基礎生物化学実験、情報化学 1、生物化学実験、酵素構造工学、遺伝子・細胞工学、専門基礎（生物応用化学）、技術英語
中島めぐみ	助教	修士（医科学）	心身医学	創造化学実験、生物化学実験、化学工学基礎、生物有機化学、専門基礎（生物応用化学）、物化・化工実験、情報処理演習、地球環境と現代生物学
津田 祐輔	特任教授	博士（工学）	高分子化学・材料	有機化学実験、生物応用化学概論、高分子化学 1、機能有機材料、ポリマー工学、創造工学実験、有機構造化学、機能有機材料特論
全員が担当することを基本とする授業科目				生物応用化学入門、科学技術史、応用化学実験または生物工学実験、卒業研究、専攻科研究基礎、専攻科研究論文

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	備考
西尾 浩昭	品質・安全工学	JNC 株式会社水俣製造所 環境安全品質部 部長
牧原 孝	品質・安全工学	JNC 株式会社水俣製造所 環境安全品質部 安全衛生担当 次席
添田 義弘	品質・安全工学	JNC 株式会社水俣製造所 製造第 2 部付次席企画員
田代 博之	応用数学	久留米工業大学工学部機械システム工学科 教授
原 信海	産業財産権・工業倫理	原特許事務所 所長
元村 直行	産業財産権・工業倫理	元村知財コンサル事務所 所長
ポール マッフェュジョン・ミーイン	工業英語	語学学校経営
権藤 豊彦	物化・化工実験	JSR トレーディング株式会社技術アドバイザー
高倉 剛	化学工学 1	株式会社三菱ケミカルリサーチ福岡オフィス 部長

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
核磁気共鳴装置	JEOL 500MHzFT NMR	1 式	総合試作技術教育センター
紫外・可視分光光度計	JASCO V670,V640 他	1 式	総合試作技術教育センター
HPLC システム	Shimadzu 他	1 式	生物化学工学実験室
生物観察用顕微鏡	KEYENCE BZ-9000 他	1 式	機器分析室
ゴム材料分析装置	キュラストメーター他	1 式	ケミカルエンジニアリング・エラストマー研究室

5. 教育課程（専門科目）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
専門科目	生物学 2	2	2				
	基礎無機化学	2		2			学修単位
	酸塩基化学	1		1			
	基礎有機化学 1	1	1				
	基礎有機化学 2	1		1			
	物理化学 1	1		1			
	物理化学 2	1			1		
	無機化学 1	1			1		
	無機化学 2	1			1		
	有機化学 1	1		1			
専門分野Ⅰ	有機化学 2	1			1		
	高分子化学 1	1			1		
	有機金属化学	1			1		
	有機合成化学	1			1		
	高分子化学 2	1			1		
	機能有機材料	1			1		
	応用化学実験	3			3		
	ポリマー工学	2				2	学修単位
	生物有機化学	1			1		
	遺伝子・細胞工学	2			2		
専門分野Ⅱ	代謝工学	1			1		
	生物工学実験	3			3		
	バイオ工学	2				2	学修単位
	化学工学 1	2			2		
	化学工学 2	4				4	学修単位
	機器分析	2			2		
	工業物理化学 1	1			1		
	工業物理化学 2	1				1	
	機械工学概論	1				1	学科横断科目
	電気電子工学概論	1				1	学科横断科目
設計・開発	基礎溶液化学	1		1			
	化学平衡論	1		1			
	酵素構造工学	2			2		学修単位
	応用数学	2			2		
専門関連分野	応用物理 1	2			2		
	応用物理 2	2			2		
	応用物理実験	2			2		
	環境工学	2				2	学修単位
	情報化学 1	2	2				
	情報化学 2	1			1		
	化学工学基礎	1			1		
	情報処理演習	2				2	学修単位・学科横断科目
	創造化学実験	2	2				
	分析化学実験	2		2			
必修関連分野	基礎生物化学実験	3		3			
	有機化学実験	3			3		
	生物化学実験	3			3		
	物化・化工実験	3				3	
	生物応用化学入門	1	1				
	品質・安全工学	2				2	学修単位
	産業財産権・工業倫理	2				2	学修単位
	卒業研究	11				11	
	工業英語	1				1	
	必修科目修得小計	88	3	12	22	26	25
選択科目	生物応用化学概論	1				1	4 年編入生のみ履修
	専門基礎（生物応用化学）	2			2		3 年次編入留学生の必修科目
	科学技術史	1				1 (1)	1 単位以上
	短期インターンシップ	1				1	
	選択科目修得小計	1 以上				1 以上	
専門科目修得合計		89 以上	3	12	22	52 以上	
修得単位数総計							
一般	必修科目	77	27	25	16	8	1
	選択科目	1				1 (1)	
	小計	78	27	25	16	10	
専門	必修科目	88	3	12	22	26	25
	選択科目	1 以上				1 以上	
	小計	89 以上	3	12	22	52 以上	
総修得単位数		167 以上	30	37	38	62 以上	

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、九州大学工学部、東京工業大学（生命理工学部、工学部）、名古屋大学工学部、東北大学理学部、神戸大学（理学部、農学部）、広島大学（工学部、生物生産学部）、横浜国立大学理工学部、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学

(2) 就職先

旭化成（株）、出光興産（株）、岩谷瓦斯（株）、宇部興産（株）、AGC（株）、大阪ガス（株）、小川香料（株）、花王（株）、関西グリコ（株）、京セラ（株）、麒麟ビール（株）、KM バイオロジクス（株）、（独）国立印刷局、サントリースピリッツ（株）、三洋化成工業（株）、JXTG エネルギー（株）、JNC（株）、シオノギファーマ（株）、（株）資生堂、昭栄化学工業（株）、昭和電工（株）、住友精化（株）、第一三共プロファーマ（株）、ダイキン工業（株）、大日精化工業（株）、武田テバファーマ（株）、DIC（株）、中外製薬工業（株）、東京ガス（株）、東洋インキ SC ホールディングス（株）、（株）東洋新薬、東レ（株）、日東電工（株）、（株）日本触媒、ニプロ（株）、（株）三井化学分析センター、三菱ガス化学（株）、森永乳業（株）、（株）ヤクルト本社、ライオン（株）

材料システム工学科

1. 概略

材料システム工学科は、以下の教育目的・目標の下、私たちの生活を支える優れた製品を創り出すために、その基礎となる材料の知識や技術を修得するための教育、それらの知見に基づいた新しい材料や機能性を高めた材料を開発するための研究を行っています。

この学科を卒業する学生には、将来のものづくりを支える技術者になって欲しいと願い、実験・実習を多く取り入れた実践的な教育を進めています。材料工学を学ぶことができる高専は、全国には4高専しかなく、このことは本学科の特徴となっています。卒業生は、主に鉄鋼・非鉄等の素材メーカーをはじめ、機械、輸送機器、電機、エネルギー等の産業分野で活躍しています。

2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

ものづくりの基礎となる工業材料の開発・設計・製造から利用、その後の寿命による破壊、リサイクルまでの材料に関する一連の専門知識を身につけ、社会の発展に貢献できる技術者を育成する。

(2) 教育目標

- 金属、セラミックス、高分子材料などに関する次にあげる基礎的な知識や技術を修得し、それらを活用できる能力を養成する。
- ・構造、性質、機能
 - ・製造プロセス、加工、リサイクルに関する技術
 - ・設計、解析、評価
 - ・材料工学に関連した周辺知識

3. 教員

(1) 常勤

氏名	役職	学位	専門分野	担当科目
奥山 哲也	教授	工学博士	固体物理	材料システム実験2、電気電子材料、材料物性実験、材料物性学1、材料物性学2、専攻科特論一般Ⅰ、専攻科特論一般Ⅱ、専攻科特論専門Ⅰ、専攻科特論専門Ⅱ、創造工学実験、半導体材料、専攻科インターンシップ、先端工学特論、専攻科研究基礎、専攻科研究
川上 雄士	教授 / 学科長	博士（工学）	金属加工学	材料組織実験、金属物理学2、工業英語、材料物性実験、物質工学概論、金属材料学2、品質管理、金属熱処理論、構造材料学、専攻科研究基礎
森園 靖浩	教授	博士（工学）	材料組織学	材料システム工学概論、材料組織学、材料システム実験2、材料工学演習、金属材料学1、材料加工実験、接合工学、材料強度学、専攻科研究基礎、専攻科研究
山本 郁	教授	博士（工学）	材料組織制御	図学、基礎設計製図、材料システム実験2、塑性加工学、材料評価実験、融体加工学、創造工学実験、先端工学特論、材料組織制御、専攻科インターンシップ、専攻科研究基礎、専攻科研究
矢野 正明	准教授	博士（工学）	電気化学	物理化学1、材料化学実験、電気化学1、環境工学、材料評価実験、電気化学2、表面処理工学
岩田 憲幸	准教授	博士（工学）	材料化学	材料システム実験1、セラミックス材料学1、セラミックス材料学2、工業英語、材料加工実験、機能性無機材料学
周 致霆	准教授	博士（工学）	構造材料物性学	情報リテラシー、情報処理1、金属物理学1、材料組織実験、情報処理2、材料評価学、高温強度学
清長 友和	講師	博士（工学）	材料化学	材料化学1、材料化学実験、材料工学演習、工業英語、物理化学2、材料加工実験、触媒材料化学
佐々木大輔	助教	博士（工学）	材料強度学	材料加工実習、機械加工学、材料力学、材料工学設計製図、短期インターンシップ、材料評価実験、応用情報処理演習、専攻科研究基礎、専攻科研究
小袋 由貴	助教	博士（工学）	材料化学	情報リテラシー、情報処理1、材料システム実験1、工業英語、材料化学2、技術英語、専攻科研究基礎、専攻科研究
全員が担当することを基本とする授業科目				材料システム工学入門、短期インターンシップ、卒業研究

(2) 非常勤講師

氏名	担当科目	備考
原田 哲夫	応用数学1	予備校講師
田代 博之	応用数学2、応用数学3	久留米工業大学工学部機械システム工学科 教授
馬越 幹男	基礎材料化学、材料合成プロセス	久留米工業高等専門学校 名誉教授
板倉 賢	材料物性学2	九州大学大学院総合理工学研究院 准教授
波多 聡	結晶構造解析	九州大学大学院総合理工学研究院 教授

4. 主な教育研究用設備

設備名	仕様等	数量	設置場所
走査型電子顕微鏡	エリオニクス ERA-8900FE	1 式	総合試作技術教育センター
X 線回折分析装置	PANalytical EMPYREAN システム	1 式	総合試作技術教育センター
ICP 発光分光分析装置	日立ハイテクサイエンス SPS3520V-DD-OP シーケンシャル型	1 式	総合試作技術教育センター
走査型 X 線光電子分光分析装置	アルバック・ファイ Quantera II	1 式	総合試作技術教育センター
高温引張試験装置	島津 AG-100kNXplus	1 式	材料組織制御研究室

5. 教育課程（専門科目）

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
材料システム工学入門	2	2					
情報リテラシー	1		1				
情報処理1	1		1				
情報処理2	1				1		学科横断科目
応用数学1	2				2		
応用数学2	1				1		
応用数学3	1					1	
応用物理1	2			2			
応用物理2	2			2			
材料加工実習	3	3					
図学	1	1					
基礎設計製図	1		1				
応用設計製図・CAE	2				2		
電気電子工学概論	1				1		学科横断科目
機械加工学	1			1			
基礎材料化学	2		2				
セラミックス材料学1	1			1			
セラミックス材料学2	1				1		
材料化学1	2			2			
材料化学2	2				2		
物理化学1	2			2			
物理化学2	2				2		
高分子材料学	1					1	学科横断科目
電気化学1	1				1		
電気化学2	1					1	
環境工学	1					1	
金属物理学1	2			2			
金属物理学2	1				1		
材料物性学1	1				1		
材料物性学2	2					2	
材料力学	2			2			
塑性加工学	2				2		
材料組織学	1			1			
材料強度学	2					2	学修単位
金属材料学1	2				2		
金属材料学2	2					2	学修単位
融体加工学	1					1	
材料評価学	2					2	学修単位
工業英語	2				2		学修単位

6. 主な進学・就職先

(1) 進学先

本校専攻科、東京工業大学、九州大学工学部、東北大学工学部、熊本大学工学部、九州工業大学工学部、佐賀大学理工学部、愛媛大学工学部、室蘭工業大学工学部、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学

(2) 就職先

日本製鉄(株)、日産自動車(株)、(株) SUBARU、DOWA サーモエンジニアリング(株)、NOK(株)、(株) アーレスティ、日本ピストンリング(株)、東プレ九州(株)、(株) 東研サーモテック、ダイキン工業(株)、JX 金属(株)、(株) シマノ、日清紡ブレーキ(株)、三井金属鉱業(株)、高周波熱錬(株)、日本精工(株)

授業科目	単位数	学年別配当					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
安全工学・工業倫理	1					1	学科横断科目
化学実験	2		2				
応用物理実験	2			2			
必修 材料システム実験1	2		2				
材料システム実験2	2			2			
材料システム実験3	3				3		
材料システム実験4	3				3		
材料システム実験5	3					3	
卒業研究	9					9	
必修科目修得小計	87	6	9	19	27	26	
選択科目	専門基礎(材料システム工学)	1			1		3年次編入留学生の必修科目
	材料工学概論	1				1	4年編入生のみ履修
	短期インターンシップ	1				1	
	接合工学・複合材料	1				1	
	金属熱処理論	1				1	2単位以上修得
	品質工学	1				1	
選択科目修得小計		2 ^選 _上				2以上	
専門科目修得合計		89 ^選 _上	6	9	19	55以上	

修得単位数総計

一般	必修科目	77	26	26	16	8	1	
	選択科目	1 ^選 _上					(1)	
	小計	78 ^選 _上	26	26	16		10	
専門	必修科目	87	6	9	19	27	26	
	選択科目	2 ^選 _上					2以上	
	小計	89 ^選 _上	6	9	19	55以上		
総修得単位数		167 ^選 _上	32	35	35	65以上		

※学科横断科目：他学科の教員がその専門を講義する科目

専攻科

1. 概略

専攻科は、高等専門学校を卒業した者に対して、精深な程度において、特別の事項を教授し、その研究を指導するために置かれる組織です。

本校は、高等専門学校卒業生に対して、継続性のあるより高度な技術者教育を行うことを目的として、平成5年に九州で初めて専攻科を設置しました。

本校専攻科は、修業年限2年の機械・電気システム工学専攻（3コース）及び物質工学専攻（2コース）から成り、更に高度な専門知識を追求するだけではなく、充実した実験、研究を行うことにより、独創的な研究開発や先端技術に対応できる技術者の育成を目指しています。

なお、本校専攻科の修了生は、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構より、同機構が通常課している試験を受験することなく学士号を授与されます。



2. 教育目的・目標

(1) 教育目的

本校の専攻科課程における教育目的は、次のような実践的、創造的技術者を育成することとする。

- ①先端技術及び高度情報化に対応できる技術者
- ②創造的研究開発能力を持った技術者
- ③国際化に対応できる技術者

(2) 教育目標

①機械工学コース

ア 技術者倫理

- (ア) 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
- (イ) 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
- (ウ) 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。

イ 数学、物理、情報処理に関する知識と応用力

- (ア) 数学に関する知識を専門分野に応用できる。
- (イ) 物理に関する知識を専門分野に応用できる。
- (ウ) 情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。

ウ 機械工学に関する専門知識の習得と職業上応用できる基礎能力の育成

- (ア) 材料と強度に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
- (イ) 機械設計に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
- (ウ) 生産工学に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。
- (エ) 熱・流体工学に関する専門知識を習得し、職業

上応用できる基礎能力を身に付ける。

- (オ) 制御・情報技術に関する専門知識を習得し、職業上応用できる基礎能力を身に付ける。

エ 工学的な解析能力・考察力の育成及び機器操作の習得

- (ア) 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。

- (イ) 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。

オ 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。

- カ 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。

キ 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーション

- (ア) 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
- (イ) 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。

ク 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。

②電気電子工学コース

ア 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得

- (ア) 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
- (イ) 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。

イ 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得

- (ア) ICT 電子機器のしくみを理解し説明できる。
- (イ) ICT 電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。

ウ もの、製品をベースにした技術実務能力の習得

- (ア) 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
- (イ) 実験データを解析、考察し説明できる。
- (ウ) 共同で実験・演習を遂行できる。

エ 電気電子技術の基礎となる学力の修得

- (ア) 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
- (イ) 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。

オ 技術に関するコミュニケーション能力の育成

- (ア) 分わかりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
- (イ) 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。

カ 技術者倫理感覚の育成

- (ア) 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
- (イ) 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。

キ 企画・管理能力の育成

- (ア) 産業や社会との連携活動や実験・実習の中から

技術的な課題を見出すことができる。

- (イ) 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

③制御情報工学コース

ア 技術者としての広い視野と倫理観

- (ア) 豊かな心を持ち、広い視野で物事を捉えることができる。
- (イ) 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解できる。

イ 基礎工学の知識と応用力

- (ア) 数学、自然科学、情報に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
- (イ) 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。

ウ 専門工学の知識と応用力

- (ア) 制御、情報及びこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
- (イ) 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
- (ウ) 前(ア)の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。

エ デザイン力

学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。

オ コミュニケーション力

- (ア) 日本語での自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
- (イ) 英語による基礎的なコミュニケーションができる。

カ 実践力

- (ア) 他者と協力して課題に取り組むことができる。
- (イ) 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
- (ウ) 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

④生物応用化学コース

ア 技術者倫理と多面的視野

- (ア) 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
- (イ) 地球的規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。

イ 生物応用化学基礎と工学基礎

- (ア) 生物及び化学に関する基礎知識を習得する。
- (イ) 物理、数学及び情報技術を工学に応用できる。

ウ 生物応用化学の専門知識と応用力

- (ア) 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識及び両分野に共通して必要な専門知識を習得し、それらを当該工業分野に応用することができる。
- (イ) 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術及び両分野に共通して必要な実験技術を体得し、それ

らを種々の問題解決に応用することができる。

エ 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し、社会の要求を解決するための企画力を持っている。

オ 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。

カ 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。

キ 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

⑤材料工学コース

ア 自然科学及び情報処理技術に関する知識

(ア) 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識とその応用力を身に付ける。

(イ) 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適応させる能力を身に付ける。

イ 材料に関する基礎的知識と応用力

(ア) 材料、特に金属及びセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付ける。

(イ) 材料、特に金属及びセラミックス材料の製造プ

ロセスについての基礎知識を身に付ける。

(ウ) 材料に関する基礎的知識を工学問題の解決に活用できる能力を身に付ける。

ウ 工学的な基礎原理・現象の理解能力

エ 調査及び実行能力

(ア) 課題に対して自主的に調査する能力を身に付ける。

(イ) 計画性を持って物事に取り組み、実行する能力を身に付ける。

(ウ) 課題の結果を間違いの少ない文章及び口頭で表現し、討論できる能力を身に付ける。

オ 異文化理解とコミュニケーション能力

(ア) 英語により材料工学に関する基本的コミュニケーションができる。

カ 多面的視野と技術者倫理

(ア) 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考える能力を身に付ける。

(イ) 技術者の社会的責任を自覚する能力を身に付ける。

キ 地域産業での実務経験

(ア) インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考えることができる。

3. 教育課程

(1) 各専攻・コース共通

授業科目			授業形態	単位	学年別配当		備考
					1 年次	2 年次	
一般科目	必修	実践英語Ⅰ	演習	1	1		
		実践英語Ⅱ	演習	1	1		
		実践英語Ⅲ	演習	2		2	
		環境倫理学	講義	2	2		
		工学倫理	講義	2		2	
	一 般 科 目 必 修 単 位 計			8	4	4	
	選択	産業財産権特論	講義	2	2		4 単位以内
		専攻科特論一般Ⅰ	講義又は演習	2	2		
専攻科特論一般Ⅱ		講義又は演習	2		2		
一 般 科 目 選 択 単 位 計			6	4	2		
専門基礎科目	必修	地球環境と現代生物学	講義	2	2		
		現代物理学	講義	2	2		
		応用情報処理演習	演習	2	2		
		専門基礎科目必修単位小計		6	6	0	
	選択	応用数理Ⅰ	講義	2	2		10 単位以上修得
		応用数理Ⅱ	講義	2	2		
		応用数理Ⅲ	講義	2		2	
		量子力学	講義	2	2		
		物性化学	講義	2	2		
		画像工学	講義	2	2		
		応用情報処理	講義	2	2		
		統計力学及び熱力学	講義	2		2	
		専攻科特論専門Ⅰ	講義	2		2	4 単位以内
		専攻科特論専門Ⅱ	講義	2		2	
専門基礎科目選択開設単位小計			20	12	8		
専門基礎科目開設単位計			26	18	8		
一般科目、専門基礎科目開設単位合計			40	26	14		

(2) 機械・電気システム工学専攻

授業科目			授業 形態	単位数	学年別配当		備考		
		1 年次			2 年次				
専門科目	必修	創造工学実験	実験	2	2				
		技術英語	演習	1		1			
		先端工学特論	演習	1	1				
		専攻科研究基礎	実験	5	5				
		専攻科研究論文	実験	10		10	学修総まとめ科目		
		専 門 科 目 必 修 単 位 小 計		19	8	11			
	選択	弾塑性力学	講義	2	2		A	*	*
		破壊力学	講義	2	2		A	*	*
		応用流動工学	講義	2	2		A	*	*
		生産加工学	講義	2		2	A	*	*
		移動現象論	講義	2	2		A	*	*
		計算法学	講義	2		2	A	S	*
		設計システム工学	講義	2	2		A	*	E
		メカトロニクス工学	講義	2		2	A	S	E
		システム制御工学	講義	2	2		A	S	E
		デジタル制御	講義	2	2		A	S	E
		トライボロジー解析学	講義	2		2	A	*	*
		コンピュータグラフィックス	講義	2		2	*	S	*
		パターン認識	講義	2		2	*	S	*
		形式言語とオートマトン	講義	2	2		*	S	E
		データベース	講義	2	2		*	S	*
		コンピュータサイエンス	講義	2		2	*	S	E
		応用電磁気学	講義	2	2		*	S	E
		光エレクトロニクス	講義	2		2	*	*	E
		集積回路工学	講義	2	2		*	*	E
		デジタル信号処理	講義	2	2		*	S	E
		プラズマ工学	講義	2		2	*	*	E
		機械工学特論	講義	2	2		集中講義		
		電気電子工学特論	講義	2	2		集中講義		
		制御情報工学特論	講義	2	2		集中講義		
		専攻科インターンシップ	実習	2	2		A	S	E
専 門 科 目 選 択 開 設 単 位 小 計			50	32	18	A,S,E の各区分 30 単位から 14 単位以上、修得のこと。			
専 門 科 目 開 設 単 位 計			69	40	29				
全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)				109	66	43			
全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)				63 単位以上					
全開設単位合計 (機械工学系)				89	56	33	備考欄の＊は他専攻扱 いの科目 (4 単位以内)		
全開設単位合計 (制御情報系)				89	54	35			
全開設単位合計 (電気電子系)				89	56	33			

※ A は機械工学系、S は制御情報系、E は電気電子系の履修科目を示す。

(3) 物質工学専攻

授業科目			授業形態	単位数	学年別配当		備考	
					1 年次	2 年次		
必修	創造工学実験	実験	2	2				
	技術英語	演習	1		1			
	先端工学特論	演習	1	1				
	専攻科研究基礎	実験	5	5				
	専攻科研究論文	実験	10		10	学修総まとめ科目		
	専門科目必修単位小計		19	8	11			
	有機反応化学	講義	2	2		C	*	
	有機構造化学	講義	2		2	C	*	
専門科目 選択	生体機能分子学	講義	2	2		C	*	
	生体物質化学	講義	2	2		C	*	
	化学工学特論	講義	2		2	C	*	
	機能有機材料特論	講義	2	2		C	*	
	分子生物学	講義	2		2	C	*	
	分子機能化学	講義	2		2	C	M	
	高分子材料特論	講義	2	2		C	M	
	応用物理化学	講義	2		2	C	M	
	機能性無機材料科学	講義	2	2		C	M	
	半導体材料	講義	2	2		*	M	
	材料組織制御	講義	2		2	*	M	
	構造材料学	講義	2	2		*	M	
	触媒材料化学	講義	2	2		*	M	
	材料強度学	講義	2	2		*	M	
	表面処理工学	講義	2	2		*	M	
	高温強度学	講義	2		2	*	M	
	生物応用化学特論	講義	2	2		集中講義		
	材料工学特論	講義	2	2		集中講義		
	専攻科インターンシップ	実習	2	2		C	M	
	専門科目選択開設単位小計		42	28	14	C 及び M とそれぞれ 28 単位中 14 単位以上修得のこと。		
専門科目開設単位計			61	36	25			
全開設単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)			101	62	39			
全科目修得単位合計 (一般科目、専門基礎科目を含む。)			63 単位以上					
開設単位合計 (生物応用化学系)			87	52	35	備考欄の*は他専攻扱いの科目 (4 単位以内)		
開設単位合計 (材料工学系)			87	54	33			

※ C は生物応用化学系、M は材料工学系の履修科目を示す。

4. 主な進学・就職先

(1) 進学先

九州大学大学院 (総合理工学府、工学府、システム生命科学府)、九州工業大学大学院情報工学府、東京工業大学大学院 (総合理工学研究科)、大阪大学大学院 (工学研究科)、筑波大学大学院 (システム情報工学研究科)、北九州大学大学院 (国際環境工学研究科)、北陸先端科学技術大学院大学、早稲田大学大学院、奈良先端科学技術大学院、東京大学、京都大学

(2) 就職先

(株) ジャパンセミコンダクター、(株) 安川電機、マツダ (株)、キャノン (株)、(株) ティー・エス・ジー、西部電気 (株)、横浜ゴム (株)、昭栄化学工業 (株)、KM バイオロジクス (株)、川重テクノロジー (株)、(株) ジェイテクト

図書館

1. 概略

本校図書館は、平成24年度の全面改修工事で図書館・総合情報センターになりました。

1階の図書館スペースには、グループ学習スペース、個別学習ブース、閲覧室があり、閲覧室内には、DVD等を鑑賞できるAVルームや直木賞作家であり本校の卒業生である安部龍太郎氏のコーナーを設置しています。

閲覧室内は工学系専門書、参考書をはじめ、文学作品や人文社会系、語学系と多数の図書を配架しています。また、本校学生・教職員だけでなく、学外の方への利用開放も行っています。



閲覧室内



2. 蔵書等

(1) 蔵書冊数

平成31年3月31日現在

分類	総記	哲学・宗教	歴史	社会科学	自然科学	工学・技術	産業	芸術・体育	語学	文学	その他	合計
和書	3,712	5,211	5,783	5,143	16,206	16,833	416	2,451	2,292	10,899	18,692	87,638
洋書	96	22	19	54	2,039	1,435	12	7	1,431	1,006	301	6,422
合計	3,808	5,233	5,802	5,197	18,245	18,268	428	2,458	3,723	11,905	18,993	94,060

(2) データベース、電子ジャーナル

名称	内容
Science Direct	エルゼビアの科学・技術・医学・社会科学分野の電子ジャーナル
AIP	米国物理学協会 (American Institute of Physics) の電子ジャーナル
APS	米国物理学会 (American Physical Society) の電子ジャーナル
JDream III	科学技術振興機構提供 (JOIS の Web 版) データベース
MathSciNet	AMS 製作による、学術論文書誌・抄録・レビュー並びに著者情報のデータベース
ACS	米国化学会 (American Chemical Society) の電子ジャーナル
CiNii	学協会刊行物・大学研究紀要・国立国会図書館の雑誌記事索引データベース等、学術論文情報を検索の対象とする論文データベース・サービス
Science	アメリカ科学振興協会 (American Association for the Advancement of Science) の電子ジャーナル

3. 主な設備

名称	仕様	数量
ブックディテクションシステム	M-3501 5S-1 M-942	1 台
図書検索用パソコン	FMVKH2D2MI	3 台
視聴覚用 AV 機器	REGZA24B5,DXR160V	3 台
	BDP-3120-K	1 台

4. 利用状況 (平成 30 年度)

	機械工学科		電気電子工学科		制御情報工学科		生物応用化学科		材料システム工学科 (2～5 年:材料工学科)		専攻科		合計	
	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数
1 年	24	53	23	35	84	119	34	60	102	155	351	536	618	958
2 年	198	375	164	304	237	399	147	276	166	276	130	238	1,042	1,868
3 年	13	22	22	38	115	221	118	205	84	133			352	619
4 年	131	230	142	220	81	139	201	376	525	813			1,080	1,778
5 年	135	232	132	239	130	201	120	186	207	369			724	1,227
合計	501	912	483	836	647	1,079	620	1,103	1,084	1,746	481	774	3,816	6,450

教職員		一般利用者		合計	
人数	冊数	人数	冊数	人数	冊数
208	410	49	79	257	489

学生相談室

学生相談室は、学生が直面する様々な悩みなどに対して、担任や授業担当教員と同様にその解決をサポートするところです。

学生相談室のメンバーは、学生相談室長・室員(教員)・看護師・カウンセラー・精神科医(必要に応じて来校)で構成されています。

カウンセラー及び精神科医は専門職の立場で学生の悩み等を聞き、必要なアドバイス及び解決へのサポートを行います。

学生相談室の活動は Web ページでも確認することができます。

学生だけでなく、保護者や担任の先生からの相談も受け付けています。



学生相談室

ものづくり教育センター

ものづくり教育センターは、旧機械電気実験実習棟及び旧機械工作工場の2棟を改修し、平成26年4月から運用を開始しました。

ものをつくる基礎技術をベースに、IT 技術を応用した新世代の生産技術へ発展させ、新しい機械加工やスマート電力の生産制御技術へ対応できる技術者の育成と、産業界への技術的な貢献が可能な施設です。

実習関連施設として、従来の基礎的な実習(木型、鋳造、鍛造・溶接、機械加工・手仕上げ)を行う設備を確保しつつ、新たに 3D プリンタや NC 工作機械を導入し、IT 技術を応用したものづくり教育に対応できる実習環境となっています。



総合情報センター

情報処理教育システム、ネットワークおよび学内情報化に関する業務が旧情報処理センターに一点集中する傾向にあったことから、業務量増大の対応策として平成12年4月に総合情報センターを設置しました。

総合情報センターは「Information」、「Communication」および「Computing」に関連する業務全体の組織的運用を目指しており、情報を積極的に提供あるいは活用して、学内の情報処理を合理的かつ効率的に実行し、教育・研究の支援を行うとともに事務系業務合理化を推進しています。



第 1IT 演習室 (L1 教室)

※主な設備等一覧

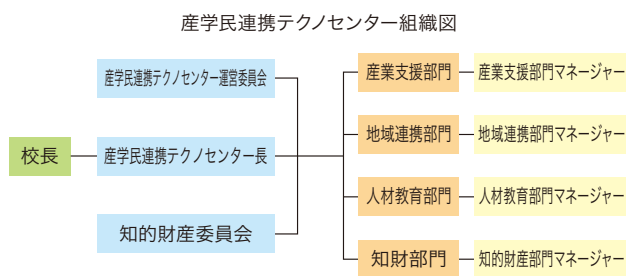
設置場所	設備等	機能等
第 1IT 演習室 (L1 教室)	学生用端末機 50 台、ページプリンタ 1 台、ネットワーク機器 一式	
第 2IT 演習室 (L2 教室)	学生用端末機 50 台、ページプリンタ 1 台、ネットワーク機器 一式	
多目的室 (L3 教室)	学生用端末機 50 台、ネットワーク機器一式	各種言語、応用ソフト装備、電子メール、WWW 等インターネットサービス
サーバー室	仮想サーバーシステム一式、ファイヤウォール一式、イーサスイッチ、HUB 類、事務用サーバー 1 台、教務システムサーバー 2 台	キャンパスネットワークを構成、インターネットに対応するソフトウェア(電子メール、WWW 等)

産学民連携テクノセンター

本校は、地域社会への貢献を目的として平成12年4月に「産学民連携推進センター」を発足させました。

さらに、地域における産官学民連携活動を推進する拠点として平成22年2月に産学民連携テクノセンター棟の竣工を機に発足したのが「産学民連携テクノセンター」です。

産学民連携テクノセンターは、下図の組織構成により本校の教育研究の発展に寄与するとともに地域社会における技術開発及び技術教育の進捗に資することを目指します。



産学民連携テクノセンター棟

産学民連携テクノセンターの ミッション

》地域産業界・民間企業との連携

共同研究等の連携制度により、民間企業等の研究内容、テーマ及びニーズに対応しています。また、テクノネット久留米と連携し、地場産業の高度化、産業力強化のための研究を推進しています。

》地域の行政・公設機関との連携

本校の教育・研究資源を広く開放し、各種公開講座を開設しています。

》初等・中等教育機関との連携

高専の持つ教育資源を活用し、地域の初等中等教育機関への支援を行っています。

》大学・高専などの高等教育機関との連携

高等教育コンソーシアム久留米等との連携を基礎に、フォーラム、講演会、セミナー等を実施しています。

》教育・研究資源の情報発信

本校の刊行物等を通じて研究者の教育・研究資源情報を発信しています。

キャリア支援室

学生の進路指導は、就職主任や5年担任を中心に各学科内の密な連携のもと、少人数教育の利点を活かした丁寧な指導や助言を行っています。各学科には進路情報を学生が自由に閲覧、アクセスできる進路指導室、スペースを設けています。さらに学校全体の取り組みとして（1）本科4年時における工場見学旅行や本科及び専攻科インターンシップ、（2）合同企業説明会や企業OB説明会及び大学等の進路説明会、（3）SPI模試や各種講演会や講習会、等を実施しています。

平成29年度より就職を統括していた就職担当委員会を発展させ、「低学年も含む高専生活全体に渡っての、進学も網羅した学生のキャリアパスの確立のサポート」を目的としたキャリア支援室が創設されました。進路選択のさらなるサポートと共に、学生の日々の学習のモチベーションアップ効果も目指しています。



材料システム工学科における進路指導室

学生寮

1. 概略

本校の学生寮は、男子学生のための「筑水寮」と女子学生のための「つつじ寮」の二棟からなります。

筑水寮は、その名を本校の傍を流れる筑後川に由来し、本校の設立当初から続く伝統ある寮です。

また、つつじ寮は2012年に建設され、久留米市の市花「久留米つつじ」から名付けられました。

主にアジア圏からの留学生数を含め約180名の寮生が生活を共にしています。



筑水寮



つつじ寮

2. 主な仕様

名称	構造	延面積 (㎡)	部屋数 (室)	定員 (名)	付帯設備
筑水寮	R4	3,783	141	210	ルームエアコン
つつじ寮	R3	578	22	30	ルームエアコン
合計		4,361	163	240	オートロック・エコキュート

3. 入寮者数

学科・専攻名	区分	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	男	12	8 (留1)	4	5 (留1)	11 (留2)	40
	女	1			1 (留1)	1 (留1)	3
	計	13	8 (留1)	4	6 (留2)	12 (留3)	43
電気電子工学科	男	7	5 (留1)	7 (留1)	3	9 (留2)	31
	女	2					2
	計	9	5 (留1)	7 (留1)	3	9 (留2)	33
制御情報工学科	男	8	2	7	7	2	26
	女	1				2	3
	計	9	2	7	7	4	29
生物応用化学科	男	5	6	5	3 (留1)	6 (留1)	25
	女	3	2 (留1)	7 (留1)	4	2 (留2)	18
	計	8	8 (留1)	12 (留1)	7 (留1)	8 (留3)	43
材料工学科	男	6	5	1		4	16
	女	1	2			1	4
	計	7	7	1	0	5	20
小計	男	38	26 (留2)	24 (留1)	18 (留2)	32 (留5)	138
	女	8	4 (留1)	7 (留1)	5 (留1)	6 (留3)	30
	計	46	30 (留3)	31 (留2)	23 (留3)	38 (留8)	168

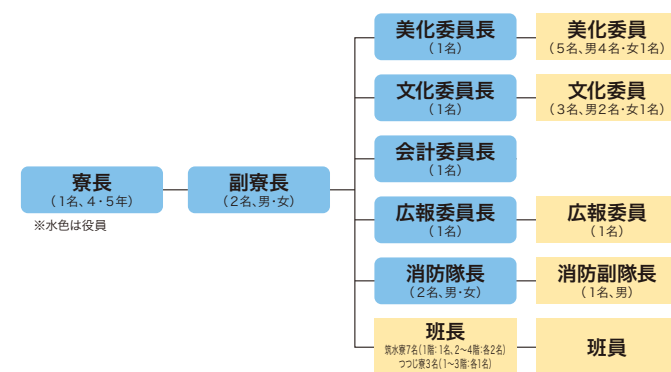
平成31年4月1日現在 (名)

学科・専攻名	区分	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械・電気システム工学専攻	男	3	3				6
	女						0
	計	3	3				6
物質工学専攻	男	1					1
	女						0
	計	1					1
小計	男	4	3				7
	女		0				0
	計	4	3				7
合計	男	42	29 (留2)	24 (留1)	18 (留2)	32 (留5)	145
	女	8	4 (留1)	7 (留1)	5 (留1)	6 (留3)	30
	計	50	33 (留3)	31 (留2)	23 (留3)	38 (留8)	175

(留) は外国人留学生で内数

4. 寮生会

学生寮の運営は、寮務主事室の指導の下で、寮長を含む寮生会役員が中心となって行われています。



機関一覧

名称	構成
寮生総会	全寮生
寮生役員会	役員
班長会議	役員、班長

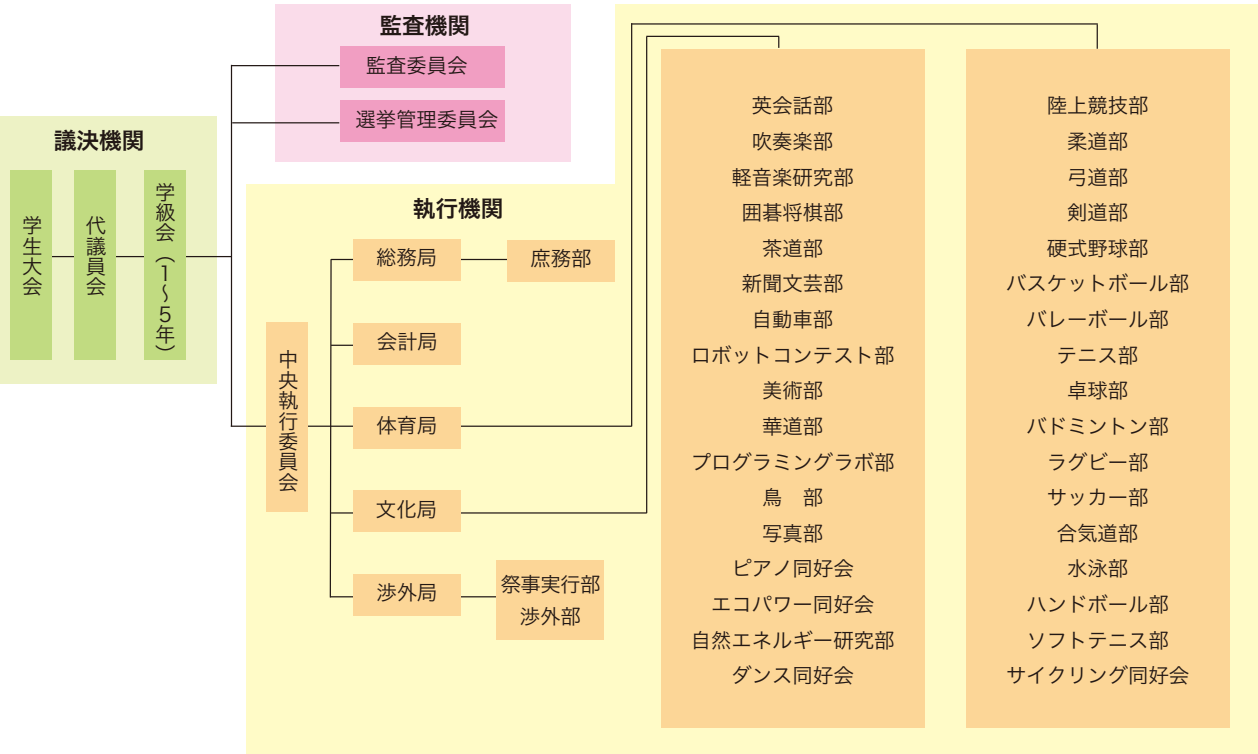
5. 年間行事

4月・開寮 ・新入寮生保護者説明会 ・対面式・寮生総会 ・ゴミ分別講習会 ・寮祭 ・第1回食堂 ・寮生会懇談会 ・避難訓練	5月・体験入寮 ・ヘルスチェックキャンペーン	6月・テーブルマナー講習会 ・第2回食堂 & 寮生会懇談会 ・夕食時間延長 (高専体育大会参加クラブ)	7月・大掃除	8月・閉寮
9月・開寮	10月・第3回食堂 & 寮生会懇談会 ・夕食時間延長 (高専体育大会参加クラブ) ・非常食シミュレーション ・防災訓練	11月・料理教室	12月・夕食時間延長 (高専体育大会参加クラブ) ・第4回食堂 & 寮生会懇談会 ・寮祭 ・大掃除 ・閉寮	1月・開寮 ・成人式・寮生総会
				3月・3月退寮者(男子) 多目的室等へ移動 ・閉寮

学生会

1. 概略

本校学生会は、学生相互の自治活動を通じて相互の調和、学芸の研究及び民主的社會人としての心身の修養に努め、もって学生生活の向上を図ることを目的としており、下図のとおり組織されています。



2. 年間行事（平成 30 年度実績）

年月日	行事名
H30.4.11	部活動紹介
H30.5.9	学生大会
H30.5.15～16	クラスマッチ（15 日午後・16 日終日）
H30.6.23	文化部発表会、献血
H30.8.10	ビジネスマナー講習会
H30.9.18	校内・地域の清掃活動
H30.11.1～11.6	高専祭
H30.12.12	クラスマッチ
H30.12.19	学生大会
H31.1.26	予餞会、献血
H31.3.14	清掃活動

3. クラブ活動の主な実績（平成 30 年度）

クラブ名	大会等名	実績
バレーボール部（女子）	第 53 回全国高専体育大会（夏季）	優勝（3 連覇）
硬式野球競技	第 53 回全国高専体育大会（夏季）	準優勝
プログラミングラボ部	全国高専第 29 回プログラミングコンテスト	競技部門 特別賞

入学・在学状況

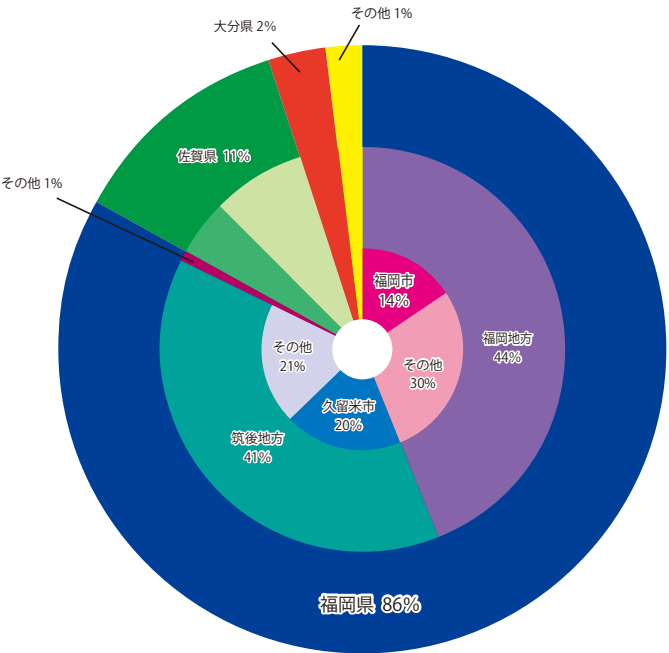
1. 定員・現員

令和元年 5 月 1 日現在													
学科等	入学定員	総定員	現 員										
			1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		計
本科	200	1,000	215	(58)	217	(52)	217	(40)	216	(45)	183	(36)	1,048
機 械 工 学 科	40	200	43	(8)	42	(5)	45	(5)	45	(5)	37	(2)	212
電 気 電 子 工 学 科	40	200	43	(7)	43	(3)	44	(1)	40	(3)	33	(3)	203
制 御 情 報 工 学 科	40	200	43	(10)	45	(7)	44	(7)	45	(8)	38	(7)	215
生 物 応 用 化 学 科	40	200	44	(18)	44	(18)	44	(19)	43	(17)	35	(11)	210
材 料 工 学 科	0	120							43	(12)	40	(13)	83
材料システム工学科	40	80	42	(15)	43	(19)	40						125
専攻科	20	40	47	(7)	39	(4)	86	(11)					86
機 械 ・ 電 気 シ ス テ ム 工 学 専 攻	12	24	26		28	(3)	54	(3)					54
物 質 工 学 専 攻	8	16	21	(7)	11	(1)	32	(8)					32

() は女子で内数
[] は留学生で内数

2. 出身地別学生数

令和元年 5 月 1 日現在			
出 身 地	学生数	出 身 地	学生数
福岡市	166	佐賀県	131
春日市	50	大分県	37
大野城市	43	鹿児島県	4
朝倉郡	31	長崎県	3
朝倉市	35	熊本県	5
糟屋郡	40	宮崎県	4
太宰府市	26	三重県	1
筑紫野市	32	愛知県	1
糸島市	17	広島県	1
那珂川市	15	ドイツ	1
古賀市	1	小 計	188
福津市	3	総計	1,040
小 計	459	(留学生は除く。)	
久留米市	201		
小都市	45		
八女市	30		
筑後市	30		
三潨郡	10		
うきは市	22		
大川市	12		
柳川市	12		
みやま市	8		
八女郡	9		
三井郡	2		
大牟田市	2		
小 計	383		
飯塚市	5		
嘉麻市	1		
嘉穂郡	2		
小 計	8		
北九州市	2		
小 計	2		
合 計	852		



卒業・修了状況

1. 卒業・修了者数（平成 30 年度）

		本科					専攻科			
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
卒業・修了者		38	38 (3)	35 (6)	41 (22)	36 (24)	188 (55)	16 (1)	16 (4)	32 (5)
	就職	17	15 (3)	18 (5)	17 (11)	20 (9)	87 (28)	8	5 (2)	13 (2)
	進学	19	20	15 (1)	24 (11)	15 (15)	93 (27)	8 (1)	11 (2)	19 (3)
	その他	2	3	2	0	1	8	0	0	0

（ ）は女子で内数

2. 進学状況（平成 30 年度）

(1) 本科

進学先		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計
本校専攻科		11	6	9	12	8	46
大学	新潟大学	0	0	0	1	0	1
	豊橋技術科学大学	1	6	1	4	1	13
	長岡技術科学大学	0	0	0	0	1	1
	九州大学	2	2	1	1	1	7
	九州工業大学	0	1	2	0	0	3
	佐賀大学	1	2	0	1	1	5
	熊本大学	2	0	0	1	1	4
	鹿児島大学	1	0	0	0	0	1
	山口大学	0	1	0	0	0	1
	広島大学	0	0	0	2	0	2
	愛媛大学	0	0	0	0	1	1
	静岡大学	0	0	0	1	0	1
	東京大学	0	2	0	0	0	2
	東京工業大学	1	0	0	1	1	3
	筑波大学	0	0	2	0	0	2
	小計	8	14	6	12	7	47
	合計	19	20	15	24	15	93

(2) 専攻科

進学先	機械・電気システム工学専攻	物質工学専攻	合計
九州大学大学院	4	7	11
東北大学大学院	1	0	1
東京工業大学大学院	0	1	1
大阪大学大学院	2	2	4
早稲田大学大学院	1	1	2
合計	8	11	19

3. 就職状況

本校では、学校推薦での就職が主となっており、その就職活動を円滑かつ細やかに進めるため、各学科に所属している教員 1 名を就職主任として配置し、担任教員と連携を取りながら、求人対応及び就職指導を行っています。就職主任は担当委員会に出席し、学科間の就職に関する情報の共有、連絡調整を行い、より効果的な支援体制の構築に努めています。

また、毎年本校の体育館にて開催される「九州地区の高専生のための合同会社説明会」への参加、SPI 試験の実施、ビジネスマナー講習会及び OB・OG によるキャリア講演会の開催、各刊行物の配布を行うなど、就職意欲を高める情報を提供しています。

(1) 本科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数					就職率 (%)
				九州地区	関西地区	関東地区	その他	計	
平成 25 年度	116	2,185	19	31	25	45	14	115	99.1
平成 26 年度	104	2,416	23	24	18	43	13	98	94.2
平成 27 年度	113	2,633	23	34	20	46	12	112	99.1
平成 28 年度	112	3,187	28	35	20	39	16	110	98.2
平成 29 年度	115	3,580	31	37	17	47	14	115	100
平成 30 年度	87	3,787	44	25	8	42	12	87	100

(2) 専攻科

卒業年度	就職希望者数	求人数	求人倍率	就職者数			就職率 (%)
				福岡県内	福岡県外	計	
平成 25 年度	10	573	57	0	9	9	90
平成 26 年度	9	657	73	2	7	9	100
平成 27 年度	10	778	77	5	5	10	100
平成 28 年度	11	1,094	99	2	9	11	100
平成 29 年度	8	1,286	160	0	7	7	87.5
平成 30 年度	13	1,335	103	3	10	13	100

(3) 産業別就職状況

区分	学科	本科					専攻科		
		機械工学科	電気電子工学科	制御情報工学科	生物応用化学科	材料工学科	合計	機械・電気システム工学専攻	合計
製造業	食料品・飲料・たばこ・飼料製造業	0	0	1	0	0	1	0	1
	化学工業、石油・石炭製品製造業	0	0	1	13	3	17	0	1
	鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業	1	2	0	0	10	13	0	1
	はん用・生産用・業務用機械器具製造業	2	3	1	0	0	5	2	5
	電子部品・デバイス・電子回路製造業	0	1	2	0	0	3	4	4
	電気・情報通信機械器具製造業	11	5	0	0	4	20	1	1
	輸送用機械器具製造業	1	1	3	0	2	7	1	1
	その他の製造業	0	0	1	0	0	1	0	0
	電気・ガス・熱供給・水道業	1	2	0	0	1	4	0	0
	運輸業・郵便業	1	0	0	0	0	1	0	0
学術研究・専門・技術サービス業	学術研究・専門・技術サービス業	0	1	1	4	0	6	0	0
	宿泊業・飲食サービス業	0	0	0	0	0	0	0	0
	地方公務	0	0	1	0	0	1	0	0
	合計	17	15	18	17	20	87	8	13

研究活動

1. 産学連携

制度名	平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	22	6,961	26	12,524	19	7,919	13	12,019	15	11,804
受託研究	1	0	1	100	1	1,700	2	1,304	0	0
奨学寄附金	21	18,978	25	16,881	22	16,829	18	12,679	9	8,980

※奨学寄附金には、創基 75 周年・高専創立 50 周年記念募金は含まない。

2. 科学研究費補助金等

(1) 科学研究費補助金

令和元年度実施課題一覧 (金額：令和元年度受入額（直接経費＋間接経費）、千円)

種目	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
基盤研究 (C)	抗力型風車高出力化のための集風ケーシング偏流装置の最適化 会合発光色素のレクチンへの可逆的な結合・解離に基づく生体蛍光検出 英語の語形変化推定を利用した言語モデルによる自動文書作成 ソフトウェアに関する研究	平成 2 9 年度 ～ 令和元年度 平成 2 9 年度 ～ 令和元年度 平成 3 0 年度 ～ 令和 2 年度 令和元年度 ～ 令和 3 年度 令和元年度 ～ 令和 3 年度	機械工学科 生物応用化学科 制御情報工学科 材料システム工学科 材料システム工学科	教授 教授 教授 教授 教授	谷野 忠和 石井 努 小田 幹雄 森園 靖浩 山本 郁	260 1,170 650 2,470 1,950
	銅に対する新しい浸炭現象の発見と実用プロセスへの展開 鋳型振動法を用いた鋳造材料の結晶粒微細化と結晶粒微細化機構の解明 高等学校における ESD と大学における異文化コミュニケーション教育の接続と開発	令和元年度 ～ 令和 3 年度 令和元年度 ～ 令和 3 年度 令和元年度 ～ 令和 3 年度	材料システム工学科 材料システム工学科 一般科目（文科系）	教授 教授 准教授	森園 靖浩 山本 郁 横溝 彰彦	2,470 1,950 1,950
	長いき裂を対象とするバースト法とプラズマ法を複合した新規き裂進展抑制手法の構築 自己組織化マップを用いた眼底血管の形状分類による脳卒中リスクの推定	平成 3 0 年度 ～ 令和 2 年度 令和元年度 ～ 令和 4 年度	材料システム工学科 制御情報工学科	助教 助教	佐々木 大輔 古賀 裕章	650 1,170
	VR 動画とヒヤリハット報告を用いた安全管理手法の構築 IoT を最大限活用した、学生のための全国横断仮想スマートグリッド実験システムの構築	令和元年度 令和元年度	教育研究支援センター 教育研究支援センター	技術専門職員 技術職員	吉利 用之 屋並 陽仁	540 540

(2) その他の補助金

令和元年度実施課題一覧 (金額：千円)

名称	課題名	期間	所属	職	氏名	金額
公益財団法人吉田学術教育振興会	非交互共役分子を用いた新規機能色素の開発	平成 3 0 年度～令和元年度	一般科目（理科系）	准教授	黒飛 敬	2,000
公益財団法人大倉和親記念財団	鉄系複合酸化物 ZnFe2O4 に及ぼす異種カチオン添加効果の解明	平成 3 0 年度～令和元年度	材料システム工学科	助教	小袋 由貴	1,000
公益財団法人高橋産業経済研究財団	有害シアノバクテリアの光合成アンテナ構築 阻害によるアオコ防除法の開発	令和元年度	生物応用化学科	准教授	萩原 義徳	1,900
一般社団法人日本アルミニウム協会	粉末・プラズマ法による建築・土木構造物の新規補修技術実用化	令和元年度～令和 2 年度	材料システム工学科	助教	佐々木 大輔	800
公益財団法人ちゅうでん教育振興財団	上級生に対する有機的な数学アクティブ・ラーニングの実践	令和元年度	一般科目（理科系）	教授	酒井 道宏	450

社会貢献

1. 生涯学習等

社会貢献及び理工学の振興を目的として、平成 30 年度は以下の公開講座等を実施しました。

開催月	講座名称	対象者	参加者数	開催月	講座名称	対象者	参加者数
8 月	化学への招待 ～楽しい生物・化学教室～	小中学生	3 6 名	8 月	3D-CAD 基礎講座	社会人	1 7 名
8 月	青銅鏡を作製しよう！	中学生	1 0 名	9 月	あなたも一日サイエンティスト	中学生	1 9 名
8 月	ソーラーカーを作ろう！	中学生	2 2 名	3 月	エレクトロニクススクール ライトレースカーを作ろう	中学生	1 9 名

2. テクノネット久留米

テクノネット久留米は、本校による地域連携活動の強化を図る目的で平成 24 年 10 月に発足し、福岡県及び佐賀県における産業のさらなる発展や地域の人材の育成等を目指しています。

平成 29・30 年度は、本校と地域産業界等との連携・交流を一層深め、地域産業の発展に寄与するとともに、本校の教育研究の振興を図ることを目的に、本校とテクノネット久留米会員との共同研究 4 件のほか、次の事業を実施しました。

年月日	事業名	年月日	事業名
平成29年 4月28日	テクノネット久留米会員照会ブック 2017 発行	平成30年 3月 5日	テクノネット久留米企業説明会 2018
平成29年 6月23日	テクノネット久留米講演会 講師：緒方 貴紀氏 (株式会社 ABEJA 最高研究責任者（当時）)	平成30年 5月28日	テクノネット久留米会員紹介ブック 2018 発行
平成29年 8月29日	図書寄贈事業「テクノネット久留米文庫」	平成30年 6月22日	テクノネット久留米講演会 講師：戸水 晴夫 氏 (SDI-Japan 代表)
平成29年10月27日	平成 29 年度テクノネット久留米定時総会	平成30年 7月 2日	図書寄贈事業「テクノネット久留米文庫」
平成29年10月27日	テクノネット久留米会員企業と久留米高専教員との 共同研究発表会 (津福工業株式会社 平川 智範氏・機械工学科 田 中准教授（当時）)	平成30年10月26日	平成 30 年度テクノネット久留米定時総会
平成29年10月27日	テクノネット久留米交流会	平成30年10月26日	久留米高専教員による研究活動発表（生物応用化学科 渡邊准 教授）/ 久留米高専学生の就職現状報告（電気電子工学科 越 地教授（キャリア支援室長）)
		平成31年 3月 5日	テクノネット久留米企業説明会 2019

国際交流

2. 学生交流

(1) 留学生在籍状況 (平成 27 ～令和元年度)

各年度 4 月 1 日現在 (単位: 名)

地域	国等	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度	令和元年度
アジア	インドネシア	2	3	2	2	1
	バングラデシュ	1	0	0	0	0
	マレーシア	5	5	4	3	3
	モンゴル	0	1	1	2	4
	インド	0	1	1	0	0
アフリカ	ガボン	1	1	1	1	0
合計		9	11	9	8	8

(2) 学生海外派遣実績 (平成 27 ～令和元年度)

(単位: 名)

地域	国等	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度
アジア	ベトナム、マレーシア、中国、タイ、韓国、シンガポール、インドネシア	7	6	14	19
オセアニア	オーストラリア	0	0	0	1
北米	アメリカ	2	0	0	0
合計		9	6	14	20

3. 研究者交流

(1) 研究者受入実績 (平成 23 ～ 30 年度)

国名	派遣元	人数 (名)	受入先	受入期間
タイ	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H23.4.1 ～ H23.9.30
タイ	キングモンクット工科大学ラカバン校	1	制御情報工学科	H25.5.7 ～ H25.5.30
タイ	マハーサーラカーム大学	1	材料工学科	H25.10.1 ～ H26.3.31
タイ	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H26.7.1 ～ H26.12.31
タイ	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H27.8.1 ～ H27.12.31
タイ	チュラロンコン大学	1	材料工学科	H28.9.4 ～ H29.9.3

(2) 研究者派遣実績 (平成 26 ～ 30 年度)

①海外渡航実績

地域	主な国	平成 2 6 年度	平成 2 7 年度	平成 2 8 年度	平成 2 9 年度	平成 3 0 年度
アジア	中国、韓国、マレーシア、タイ、シンガポール、他 5 カ国	13	14	10	15	27
アフリカ	エジプト	0	1	0	0	0
オセアニア	オーストラリア	0	0	4	0	0
北米	アメリカ	2	1	4	2	2
ヨーロッパ	イギリス、スペイン、フランス、ドイツ、他 7 カ国	4	4	4	2	6
合 計		19	20	22	19	35

②在外研究員派遣実績

国名	派遣先	人数 (名)	期間
タイ	キングモンクット工科大学ラカバン校	1	H24.7.22 ～ H24.11.30
イギリス	サウサンプトン大学	1	H27.3.9 ～ H28.3.8
アメリカ	ニューヨーク市立大学	1	H28.5.27 ～ H29.3.30

大学等間交流協定

1. 海外

(1) 大学等との協定

締結先	国	締結年月日	修了年月日
合肥学院大学	中国	平成 7 年10月 5日	無期限
啓明大学校	韓国	平成 8 年 1月22日	無期限
レッドリバー・コミュニティカレッジ	カナダ	平成 9 年 2月 3日	無期限
ナンヤン・ポリテクニク	シンガポール	平成27年11月16日	令和3年11月15日
キングモンクット工科大学 情報学部	タイ	平成29年 3月30日	令和4年 3月29日
テマセク・ポリテクニク	シンガポール	平成18年 8月 3日	無期限
リパブリック・ポリテクニク	シンガポール	平成18年 8月 3日	無期限
シンガポール・ポリテクニク	シンガポール	平成18年 8月 3日	無期限
ペトロナス工科大学	マレーシア	平成26年 2月 6日	令和6年 2月 5日
ガジャマダ大学	インドネシア	平成26年 2月 6日	令和6年 2月 5日
ガジャマダ大学専門学校	インドネシア	平成31年 3月29日	令和6年 2月 5日
キングモンクット工科大学北バンコク校	タイ	平成26年 2月 7日	令和6年 2月 6日
カセサート大学	タイ	平成26年 2月10日	令和6年 2月 9日
ハノイ大学	ベトナム	平成26年 6月 9日	令和6年 6月 8日
廈門理工学院	中国	平成26年 6月28日	令和6年 6月27日
モンゴル科学技術大学	モンゴル	平成26年 8月 2日	令和6年 8月 1日
国立台北科技大学	台湾	平成27年 3月 3日	令和7年 3月 2日
ハノイ大学	ベトナム	平成27年 6月15日	令和6年 6月14日
キングモンクット工科大学トンブリ校	タイ	平成28年 3月 1日	令和2年 2月28日
ダナン大学機構科学技術大学	ベトナム	平成29年 2月22日	令和4年 2月21日

2. 国内

(1) 大学等との協定

締結先	内容	締結年月日	修了年月日
久留米大学、久留米工業大学、久留米信愛女学院短期大学、聖マリア学院大学	単位互換	平成16年 6月28日	令和 2 年 3 月 31 日
久留米工業大学、久留米大学、聖マリア学院大学、久留米信愛女学院短期大学	高等教育コンソーシアム久留米の設置	平成21年12月17日	無期限
早稲田大学大学院情報生産システム研究科	推薦入学	平成23年 4月 1日	令和 3 年 3 月 31 日
北陸先端科学技術大学院大学	推薦入学	平成23年 3月27日	令和 2 年 3 月 26 日
有明工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校、佐世保工業高等専門学校、熊本高等専門学校、大分工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、鹿児島工業高等専門学校、沖縄工業高等専門学校	単位互換	平成21年10月 1日	令和 2 年 10 月 1 日
久留米工業大学	共通教材開発、編入学、共同研究	平成29年 6月 1日	令和 2 年 5 月 31 日
九州大学大学院総合理工学府、大学院総合理工学研究院、応用力学研究所、先端物質化学研究所	インターンシップ・共同研究	平成30年 1月11日	令和 5 年 1 月 11 日
九州大学工学系部局	インターンシップ・共同研究・連携教育の推進	平成30年12月 1日	令和 5 年 12 月 1 日

(2) 社会連携

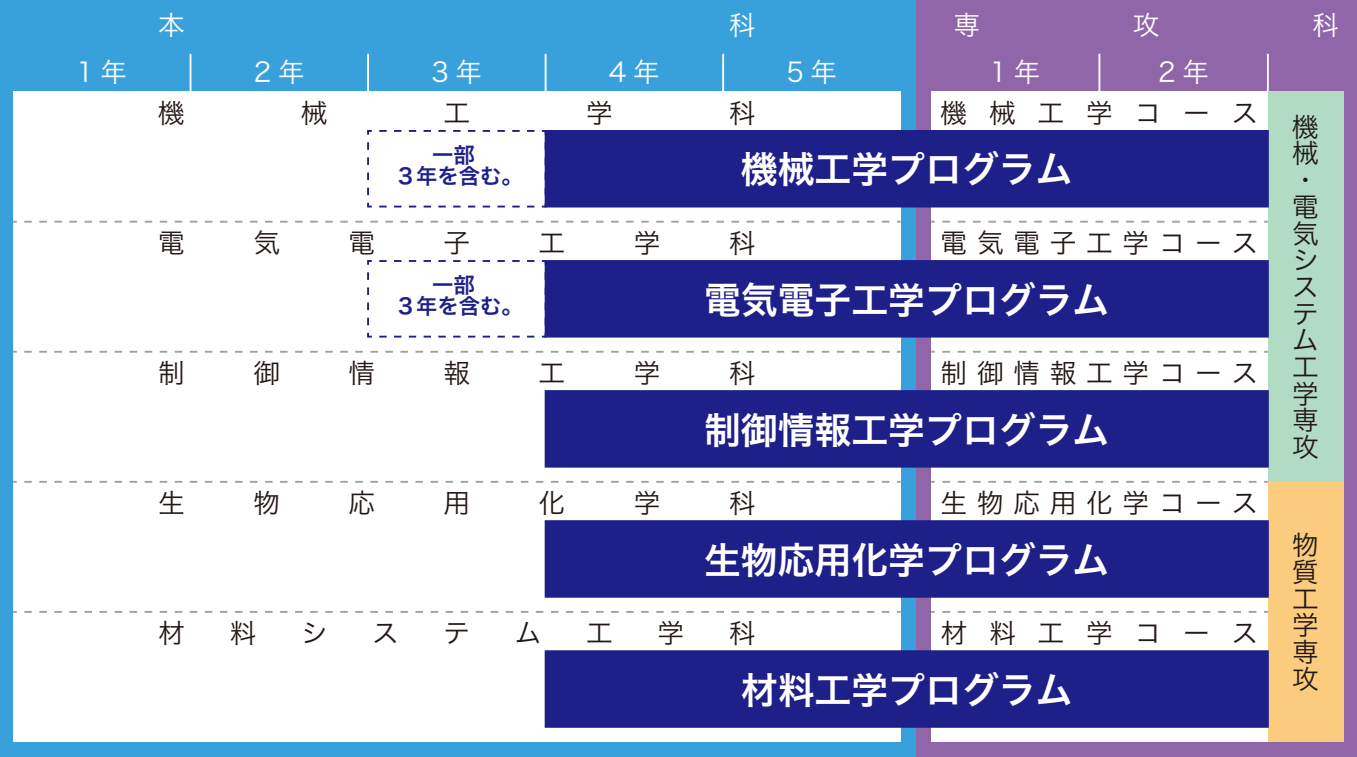
締結先	国	締結年月日	終了年月日
久留米市	事業協力	平成 21 年 3 月 31 日	期限なし
日本歯車工業会	連携・協力	平成 28 年 5 月 20 日	令和元年 5 月 20 日(1 年毎更新)
日本ゴム協会九州支部	連携・協力	平成 28 年 7 月 8 日	令和元年 7 月 8 日(1 年毎更新)
久留米商工会議所	連携・協力	平成 28 年 12 月 21 日	令和元年 12 月 21 日(1 年毎更新)
久留米工業大学	連携・協力	平成 29 年 6 月 1 日	令和 2 年 6 月 1 日

技術者教育プログラム

1. 概略

本校の本科4年から専攻科2年に至る4年間の教育については、第三者である一般社団法人日本技術者教育認定機構（JABEE）より、国際水準や社会的要求に適合する内容とレベルの教育が実施されている技術者教育プログラム（機械工学プログラム、電気電子工学プログラム、制御情報工学プログラム、生物応用化学プログラム、材料工学プログラム）として認定を受けており、その国際的同等性が保証されています。

所定の要件を満たした専攻科修了生は、JABEE 認定プログラムの修了生として認定を受けることができ、国家試験である技術士資格試験の第一次試験が免除されます。本校においては、平成16年度以降、450名（平成30年3月末現在）がJABEE 認定プログラムの修了生として認定を受けています。



2. 各プログラムの学習・教育到達目標

(1) 機械工学プログラム

- (A) 広い視野から技術者倫理を理解し自覚できる。
(A-1) 技術者倫理を広い視野から多面的に考えることができる。
(A-2) 技術者倫理に対しその責任を理解できる。
(A-3) 技術者倫理に対しその責任を自覚できる。

(B) 数学、物理、情報処理に関する知識を専門分野に応用できる。
(B-1) 数学に関する知識とその工学的応用力
(B-2) 物理に関する知識とその工学的応用力
(B-3) 情報処理に関する知識とその工学的応用力

(C) 機械工学に関する以下の専門知識を教授し、職業上応用できる基礎能力を学生の進路に配慮し育成する。
(C-1) 材料と強度
(C-2) 機械設計
(C-3) 生産工学
(C-4) 熱・流体工学
- (D) 実験・演習を実施し、その結果を工学的に解析し考察できる。
(D-1) 機械工学を学ぶ上で必要な各種の機械や機器の操作ができる。
(D-2) 実験・演習の結果を工学的に解析し考察できる。

(E) 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施できる。

(F) 種々の工学的知識や技術を利用し、自己学習やグループ学習により社会の要求を解決できる。

(G) 専門技術に関するプレゼンテーションと国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。
(G-1) 専門技術に関するプレゼンテーションができる。
(G-2) 国際化に対応できる基礎的なコミュニケーションができる。

(H) 与えられた条件のもとで技術者として地域社会に貢献できる。
- (C-5) 制御・情報技術

(2) 電気電子工学プログラム

- (A) 先端の電気エネルギーをマネジメントできる電気電子技術の習得
(A-1) 電気エネルギーの発生やその制御のしくみを理解し説明できる。
(A-2) 電気エネルギーに関する専門的知識、技術を設計に応用できる。
- (B) 先端の情報通信・電子機器を活用できる電気電子技術の習得
(B-1) ICT 電子機器のしくみを理解し説明できる。
(B-2) ICT 電子機器に関する知識、技術を設計に応用できる。
- (C) もの、製品をベースにした技術実務能力の習得
(C-1) 電力、電気、電子機器に関する実験を計画、遂行できる。
(C-2) 実験データを解析、考察し説明できる。
(C-3) 共同で実験・演習を遂行できる。
- (D) 電気電子技術の基礎となる学力の修得
(D-1) 数学、物理などの自然科学や情報技術に関する基礎事項を説明できる。
(D-2) 自然科学や情報技術に関する基礎事項を電気電子技術の専門領域で適用できる。
- (E) 技術に関するコミュニケーション能力の育成
(E-1) わかりやすく論理的に情報や意見を文書や口頭で伝達できる。
(E-2) 英語により電気電子技術に関する基本的なコミュニケーションができる。
- (F) 技術者倫理感覚の育成
(F-1) 技術が地域社会や国際社会あるいは自然環境に及ぼす影響、効果を理解できる。
(F-2) 規格、品質、安全性等に関する技術者の責任を説明できる。
- (G) 企画・管理能力の育成
(G-1) 実験・実習や社会との連携活動の中から技術的な課題を見出すことができる。
(G-2) 技術的な課題を解決するための計画を立案し遂行できる。

(3) 制御情報工学プログラム

- (A) 技術者としての広い視野と倫理観
(A-1) 豊かな心をもち、広い視野で物事を捉えることができる。
(A-2) 技術者としての倫理観を持ち、技術が社会、自然環境に及ぼす効果や影響を理解することができる。
- (B) 基礎工学の知識と応用力
(B-1) 数学、自然科学、情報技術に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に応用できる。
(B-2) 制御、情報工学専門周辺の基礎工学に関する知識を持ち、基礎的な工学問題の解決に活用できる。
- (C) 専門工学の知識と応用力
(C-1) 制御、情報およびこれらに関連した機械、電気電子分野の専門知識を持ち、工学問題の解決に応用できる。
(C-2) 各専門分野の知識、技術を複合的に関連づけることができる。
(C-3) 上記の分野の基礎的な知識・技術をもとに実験し、分析、考察することができる。
- (D) デザイン力
学んだ知識や技術をベースにして社会の要求に対する解決法を立案し、実現までの手順を計画することができる。
- (E) コミュニケーション力
(E-1) 日本語で自己の考えや知識を的確に表現し、議論することができる。
(E-2) 英語による基礎的なコミュニケーションができる。

- (F) 実践力
(F-1) 他社と協力して課題に取り組むことができる。
(F-2) 自ら学んで、必要な知識や情報を獲得し、継続的に学習できる。
(F-3) 与えられた課題に対して、計画的に作業を進め、期限内にまとめることができる。

(4) 生物応用化学プログラム

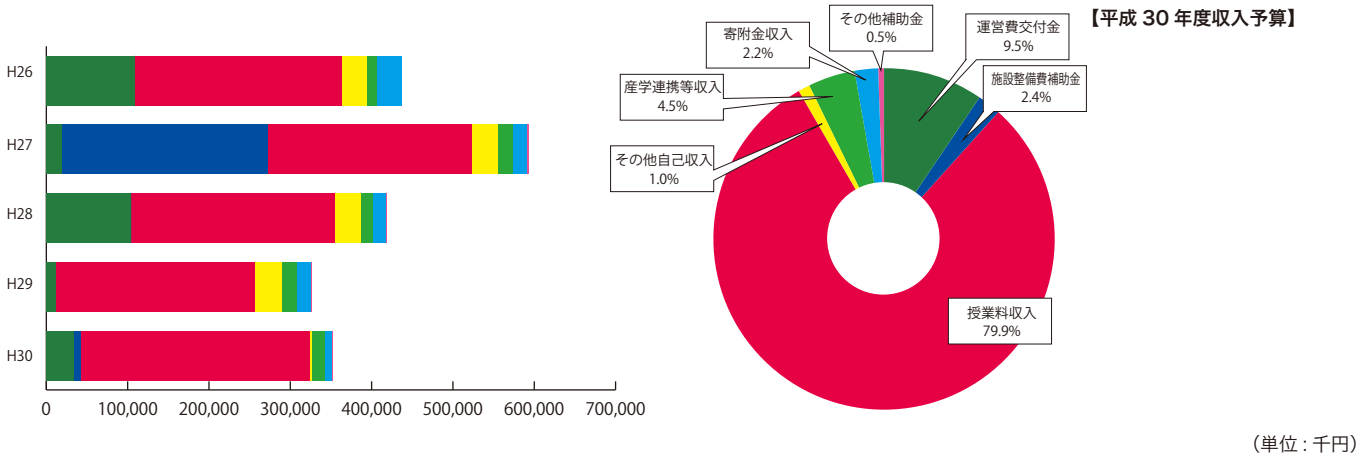
- (A) 技術者倫理と多面的視野
(A-1) 技術者として必要な倫理観を身に付け、管理能力、社会に対する説明責任能力を習得する。
(A-2) 地球の規模で環境を考え技術をデザインする能力を習得する。
- (B) 生物応用化学基礎と工学基礎
(B-1) 生物および化学に関する基礎知識を習得する。
(B-2) 物理、数学および情報技術を工学に応用できる。
- (C) 生物応用化学の専門知識と応用力
(C-1) 生物化学もしくは応用化学に必要な専門知識、および両分野に共通して必要な専門知識を習得しそれらを当該工業分野に応用することができる。
(C-2) 生物化学もしくは応用化学に必要な実験技術、および両分野に共通して必要な実験技術を体得し、それらを種々の問題解決に応用することができる。
- (D) 生物応用化学基礎、工学基礎、生物応用化学の専門知識を活用し社会の要求を解決するための企画力を持っている。
- (E) 国際化に対応できるコミュニケーション基礎能力を習得する。
- (F) 自主的にテーマを企画立案し、創造的かつ継続的に実施することができる。
- (G) 地域社会を中心とした産業界に技術者として広く貢献できる。

(5) 材料工学プログラム

- (A) 自然科学および情報処理技術に関する知識
(A-1) 数学、物理、化学などの自然科学に関する基礎知識を持ちその応用ができる。
(A-2) 情報処理に関する知識や技術を専門分野に適應できる。
- (B) 材料に関する基本的知識と応用力
(B-1) 材料、特に金属およびセラミックス材料の物性、構造、性質についての基礎知識を身に付けている。
(B-2) 材料、特に金属およびセラミックス材料の製造プロセスについての基礎知識を身に付けている。
(B-3) これらの知識を工学問題の解決に活用できる。
- (C) 工学的基礎原理・現象の理解能力
(C-1) 工学的な基礎原理・現象を実験によって理解できる。
- (D) 調査および実行能力
(D-1) 課題に対して自主的に調査できる。
(D-2) 計画性を持って物事に取組み、実行できる。
(D-3) 課題の結果を間違いの少ない文章および口頭で表現し、討論できる。
- (E) 異文化理解とコミュニケーション能力
(E-1) 英語により材料工学に関する基本的コミュニケーションができる。
- (F) 多面的視野と技術者倫理
(F-1) 技術の人間社会や自然環境への関わりを理解し、グローバルに物事を考えることができる。
(F-2) 技術者の社会的責任を自覚することができる。
- (G) 地域産業での実務経験
(G-1) インターンシップなどの実務経験を通して、多面的に物事を考えることができる。

財務

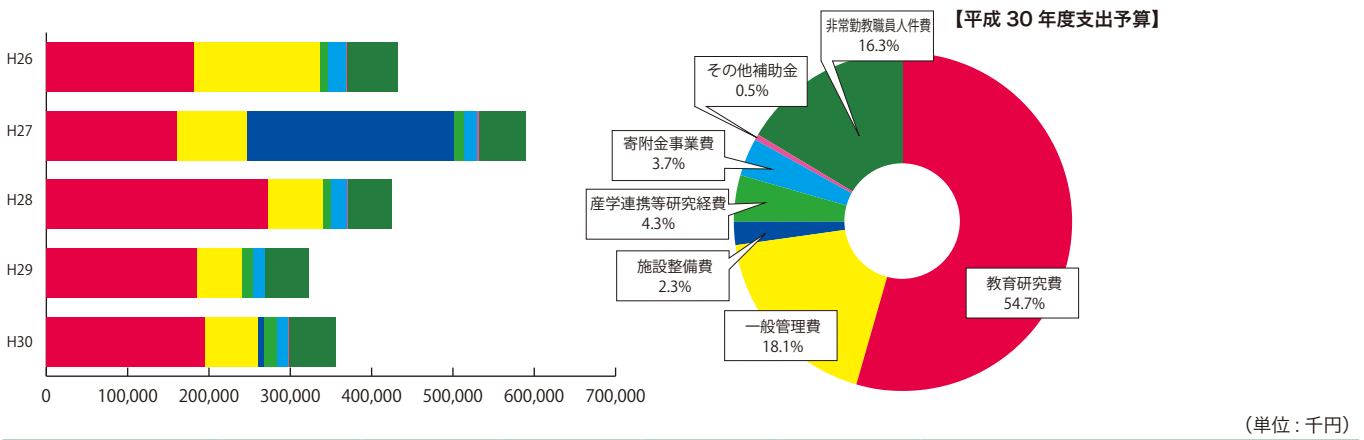
1. 収入



科目\年度	H26	H27	H28	H29	H30	説明
運営費交付金	108,582	18,466	104,394	11,654	33,571	業務運営に必要な資金として国から交付されたもの
施設整備費補助金	0	253,370	0	0	8,316	本校の基盤施設整備のために国から交付されたもの
授業料収入	254,263	251,918	250,835	244,890	281,652	学生から納付された授業料
その他自己収入	31,562	30,765	31,654	33,258	3,628	本校が受け入れた検定料、入学金、寄宿料等
産学連携等収入	12,251	18,448	13,749	18,411	15,765	産学官連携事業を実施するために寄附さてた現金等
寄付金収入	30,128	18,156	16,329	17,158	7,830	本校の業務を財政的に支援するために寄附された現金等
その他補助金	990	2,100	1,255	615	1,617	特定の事業を実施するために国等から交付されたもの
合計	437,776	593,223	418,216	325,986	352,379	

※1 平成27年度の施設整備費補助金は、屋内運動場等耐震改修及び管理棟改修及び災害復旧費。
※2 平成28年度の運営費交付金は、営繕事業予算を含む。
※3 常勤教職員の人件費については、(独)国立高等専門学校機構本部の収入予算に計上しているため上記項目の運営費交付金には含まれていない。

2. 支出



科目\年度	H26	H27	H28	H29	H30	説明
教育研究費	181,415	160,334	272,658	184,826	194,814	教育及び研究に要した金額
一般管理費	154,882	86,552	67,172	55,740	64,667	管理部門に要した金額
施設整備費	0	253,371	0	0	8,316	施設整備費補助金の対象事業に要した金額
産学連携等研究経費	9,384	12,653	9,741	13,578	15,390	産学官連携事業に要した金額
寄付金事業費	23,271	16,914	19,776	14,267	13,340	寄附金で執行した金額
その他補助金	990	2,100	1,255	615	1,617	その他補助金で執行した金額
人件費	62,600	57,995	54,639	53,129	58,244	非常勤教職員に係る人件費
合計	432,542	589,919	425,241	322,155	356,388	

※1 平成28年度の教育研究費には、旧情報処理センター改修、制御情報工学科棟外空調設備、学生寮便所改修に係る費用を含む。
※2 常勤教職員の人件費については、(独)国立高等専門学校機構本部の支出予算に計上しているため上記項目の人件費には含まれていない。

施設

1. 保有不動産

(1) 土地

総面積	校舎・学寮等敷地				職員宿舍
	校舎等	屋外運動場	学生寮	計	
101,592㎡	69,157㎡	25,649㎡	4,800㎡	99,606㎡	1,986㎡

(2) 建物

区分	名称	構造	延面積 (㎡)	区分	名称	構造	延面積 (㎡)
校舎等施設	機械・材料システム工学科棟	R4	2,691	校舎等施設	中央ボイラー室	R1	151
	D1・D2 講義室	R1	288		物品庫	B1	32
	D3・D4 講義室	R1	370		燃料庫	B1	20
	ものづくり教育センター	R2	1,950		変電室	R1	79
	熱・材力実験棟	R2	601		事務部倉庫	R1	54
	流体実験室	R2	264		記念館	R1	252
	材料実習棟	R2	405		小計		20,701
	電気電子・制御情報工学科棟	R4	2,720	図書館・体育施設等	図書館総合情報センター	R2	1,702
	電気室	R1	38		第一体育館	S1	1,121
	制御情報工学科棟	R3	793		第二体育館	RS1	880
	専門教室棟	R3	663		武道場	R2	450
	生物応用化学学科棟	R4	2,126		練心館(合宿研修所)	R2	223
	生物応用化学北別館	R1	138		学生部室	S1	612
	一般教室棟	R3	1,437		弓道場	W1	263
	一般文科・理科棟	R3	1,559		体育器具庫	S1	180
	一般共通棟	R2	419		ウェーブホール	S1	519
	専攻科棟	R3	1,202		小計		5,855
校舎等施設	総合試作技術教育センター	R1	438	学生寮施設	学生寄宿舍(筑水寮)	R4	3,002
	生物・化学実験棟	R1	300		学生寄宿舍2号館(筑水寮)	R4	781
	産学民連携テクノセンター棟	R2	413		学生寄宿舍(つつじ寮)	R3	578
	管理棟	R2	1,156		小計		4,361
	守衛室	S1	20	職員宿舍(7戸)		W	581
	車庫	R1	122	合計			31,498

2. 各種施設

(1) ウェーブホール

「学生が怒涛のごとく攻める様子」をイメージして名付けられたこの施設は、学生・教職員の憩いの場として、カフェテリアレストラン、売店、自販機コーナー、ラウンジを備えており、文化部の活動紹介や講演会等の場としても活用されています。

(2) 練心館

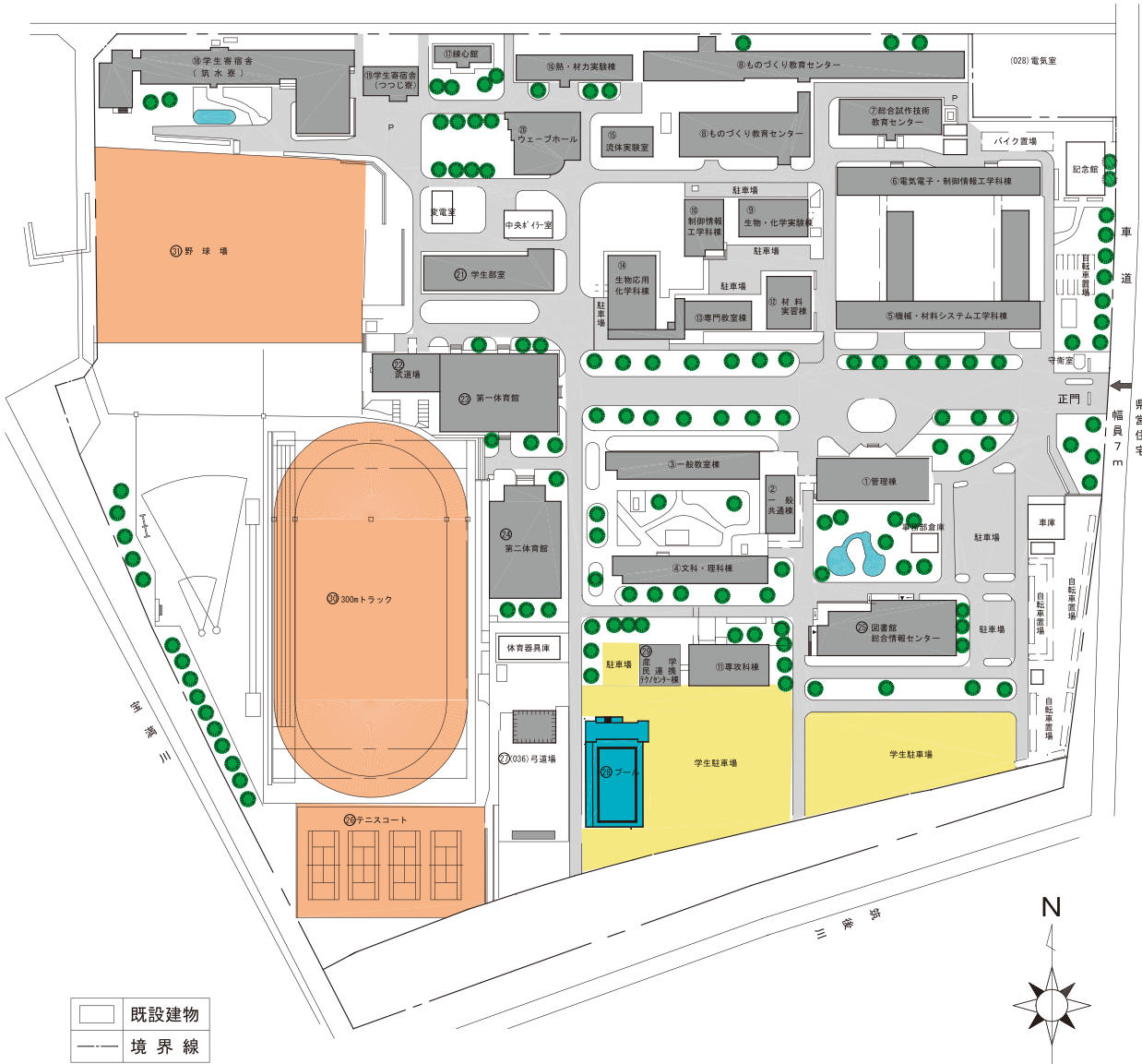
学生の心身を練磨し、協調融和の精神を養い、健全なる学校生活の発展向上を図ることを目的とした研修施設で、研修室7室を備えており、主にクラブの合宿場所として活用されています。

(3) 記念館

旧制の久留米高等工業学校の設立から数えて40周年を迎えたのを記念して、本校同窓会久留米工業会により建設され、本校に寄贈された施設で、会議室、展示室、和室を備えています。
展示室には本校の歴史的資料が展示されており、和室は茶道部や華道部等の活動場所としても活用されています。

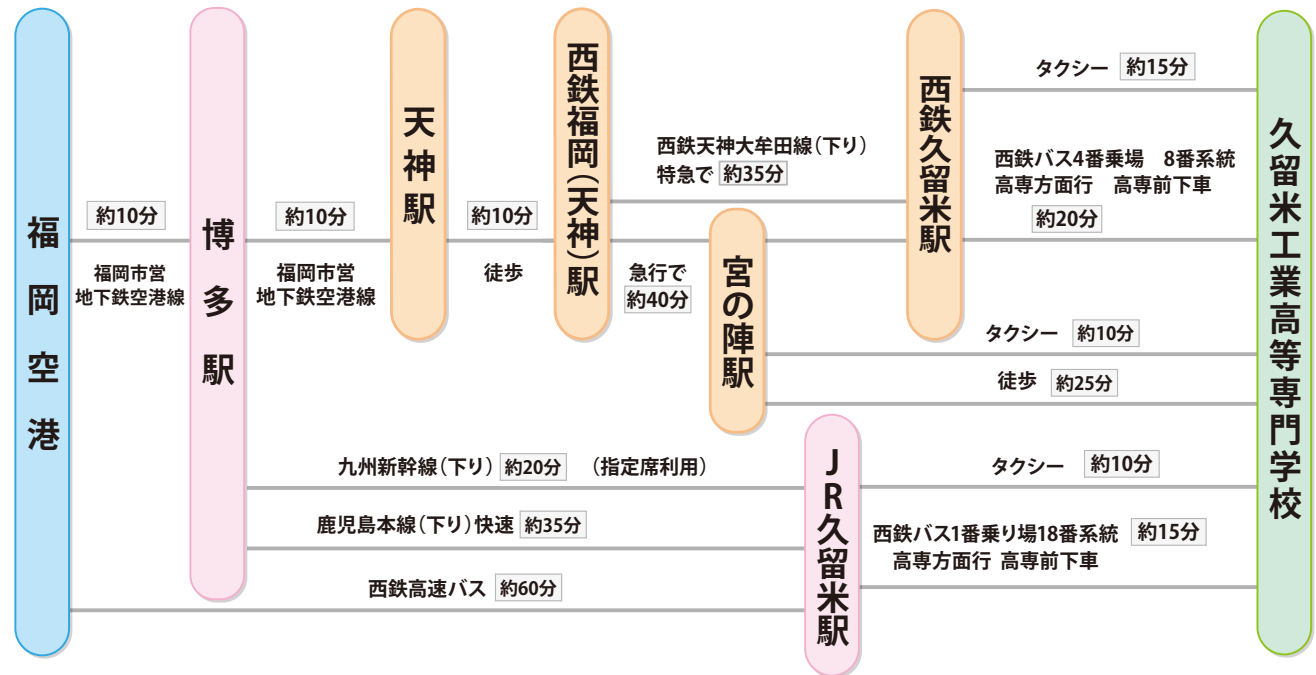
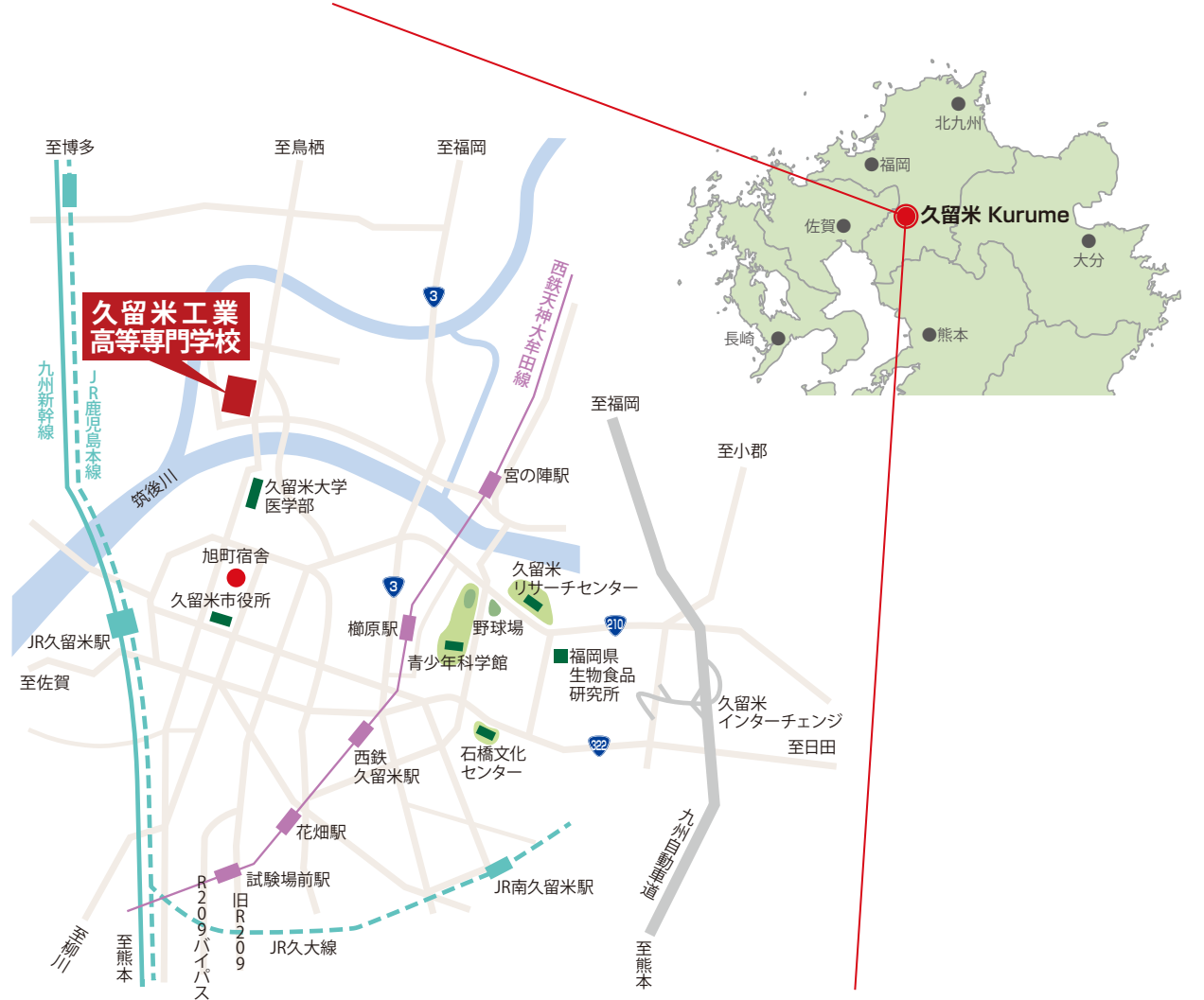


3. 配置図



- | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|
| ① 管理棟 | ⑪ 専攻科棟 | ⑳ 学生部室 |
| ② 一般共通棟 | ⑫ 材料実習棟 | ㉑ 武道場 |
| ③ 一般教室棟 | ⑬ 専門教室棟 | ㉒ 第一体育館 |
| ④ 一般文科・理科棟 | ⑭ 生物応用化学科棟 | ㉓ 第二体育館 |
| ⑤ 機械・材料工学科棟 | ⑮ 流体実験室 | ㉔ 図書館・総合情報センター |
| ⑥ 電気電子・制御情報工学科棟 | ⑯ 熱・材力実験棟 | ㉕ テニスコート |
| ⑦ 総合試作技術教育センター | ⑰ 練心館 | ㉖ 弓道場 |
| ⑧ ものづくり教育センター | ⑱ 学生寄宿舍(筑水寮) | ㉗ プール |
| ⑨ 生物・化学実験棟 | ㉙ 学生寄宿舍(つつじ寮) | ㉘ 産学民連携テクノセンター棟 |
| ⑩ 制御情報工学科棟 | ㉚ ウェーブホール | ㉙ トラック |
| | | ㉛ 野球場 |

アクセス



令和元年度 学 校 要 覧

令和元年 8 月

独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校 総務課総務係

〒 830-8555 福岡県久留米市小森野一丁目 1 番 1 号

TEL 0942-35-9300（代表） FAX 0942-35-9307

<http://www.kurume-nct.ac.jp/>
